

# 種子植物

## B 重要保護生物



ノコギリヒゴタイ 2002年10月4日 鋸山 大場達之

B サワシバ カバノキ科

重要保護

*Carpinus cordata* Blume

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱。[ MM ]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】千葉県内で確実な産地は千葉市平山町のみである。

【保護対策】サワシバを含む周辺の樹林を保全する。平山町はハルニレの自生を見られる貴重な場所である。

【文献】大野啓一 1995 サワシバ千葉市内に産する. 千植誌資料2 : 5-6./ 千植誌 2003 : 109,107.



【写真】1995.05.04 千葉市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



B アサダ カバノキ科

重要保護

*Ostrya japonica* Sarg.

【種の特性】夏緑高木。樹皮は縦長にはがれて落ちる。葉は単葉で互生。風媒で風散布。ブナ帯下部からシイ・カシ帯上部の夏緑林あるいは針葉林に混交する。ツガ群目。[ MM ]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】房総丘陵に稀に見られる。君津市三島神社の社叢にあるようなものは社叢全体の保全を十分に行う必要がある。

【保護対策】所在を明らかにして伐採を事前に防ぐ。

【文献】千植誌 2003 : 109, 107.



【写真】2002.05.05 君津市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



*Quercus gilva* Blume

【種の特性】常緑高木。樹皮は薄片となつてはげ落ちる。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。葉は倒披針形で上部に鋭い鋸歯がある、下面は黄褐色の星状毛が密にある。土壌の深いところに生える。カクレミノ - スダジイ群目。[MM]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵南部の降水量の多い地域に見られるが、長南町笠森に離れた産地がある。

【保護対策】イチイガシを含む林分の環境を良好に保全する。特に林内の空中湿度を保持する。

【文献】千植誌 2003 : 111, 117.

【写真】2001 君津市 大場達之.

(大場達之)



*Quercus phillyraeoides* A.Gray

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。殻斗外面は鱗片で被われる。ウバメガシ群団。[N ~ M]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。千葉県は三浦半島南端の産地とともに分布の北東限をなす。

【県内の状況】南房総市岩井と勝浦に自生と考えられるものが知られている。千葉市など都市部では街路・公園などに多く植栽され、それから逸出することもある。保護植物の指定は自生地に限っている。

【保護対策】自生地はいずれも社寺の境内にあたる。貴重な存在であることを地元で周知し、合意の上で保護策を講ずることが必要である。

【文献】山井廣・大場達之・木村陽子 1998 千葉県のウバメガシとイブキ. 千植誌資料 13 : 91-92. 千植誌 2003 : 111, 108.

【写真】1998.4.10 南房総市岩井 大場達之.

(大場達之)



B トキホコリ イラクサ科

重要保護

*Elatostema densiflorum* Franch. et Sav. ex Maxim.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】小形の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。かつては湿った畑、あるいは半日陰の庭などに多く見られたが現在はほとんど絶滅して稀になっている。本来の生育地は河川氾濫原のオギ群落の下と考えられ、渡良瀬川遊水池には大量に見られる。[ Th ]

【分布】本州。

【県内の状況】利根川沿岸の柏市と船橋市で記録されており、庭先あるいは路傍で採集されている。

【保護対策】雑草的生活をする種類の保全は難しい。今後対策を練る必要がある。

【文献】千植誌 2003 : 126, 123, 129.

【写真】2005 東金市 伊藤純子 .

(大場達之)



B ホソバイラクサ イラクサ科

重要保護

*Urtica angustifolia* Fisch. ex Hornem.

【種の特性】やや大形の多年草。茎は高さ 50 ~ 150 cm で直立。茎には上向きの短い毛がある。葉は対生し披針形から卵状長楕円形。葉柄などに棘毛がある。托葉は各節に 4 枚。(H).

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部、モンゴル、東シベリア、ブリモリア。

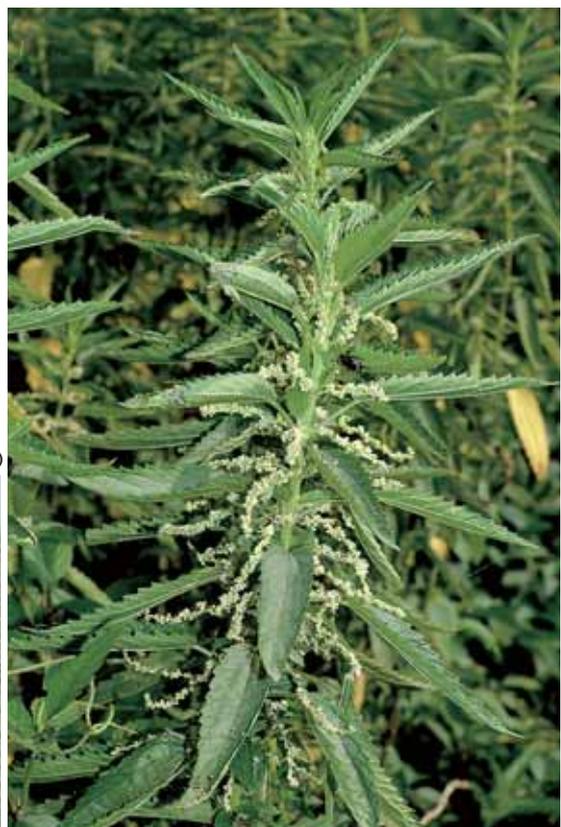
【県内の状況】利根川沿岸で 2004 年にはじめて発見された。ブナ帯に主として分布する種類で、上流から流下したと考えられるが、シイ・カシ帯では河川の氾濫原の草原の構成種となっているらしい。

【保護対策】河川の氾濫原を自然に維持する。

【文献】大場達之・木村陽子 2004 利根川で発見されたホソバイラクサ. 千植誌資料 20 : 161-162. / 千植誌 2003 : 126,123,129.

【写真】2004.07.13 柏市 木村陽子 .

(大場達之)



## B ヒノキバヤドリギ ヤドリギ科

重要保護

*Korthalsella japonica* (Thunb.) Engler

【種の特性】寄生性の常緑低木。葉は単葉で対生。鳥媒で鳥散布。主として照葉樹に寄生する。[E]

【分布】本州（関東以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、マレーシア。

【県内の状況】清澄山、内浦山などから記録があり、かつては九十九里浜平野の生け垣などに稀でなく見られたが、現在では少ない。車の排気ガスなど大気汚染の影響が考えられる。伊豆諸島には多く見られ、県内でも伊豆諸島から移入した植木に付いてきたと考えられる例もある（国内帰化）。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：433。/千植誌 2003：131。

【写真】1990。東京都 大場達之。  
(大場達之)



## B マツグミ ヤドリギ科

重要保護

*Taxillus kaempferi* (DC.) Danser

【種の特性】寄生性の常緑低木。葉は単葉で対生。鳥媒で鳥散布。モミなどの針葉樹の枝に寄生する。[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山、鋸山と長南町から記録がある。高い枝に寄生するので発見が困難で、大風の後に落下した枝で確認されることが多い。

【保護対策】生育地の寄主樹木を保護することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：433。/千植誌 2003：135,132。

【写真】2000 君津市元清澄山 大場達之。  
(大場達之)



B オオヤマフスマ ナデシコ科

重要保護

*Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

【種の特性】高さ8～15cmの夏緑の小型多年生草本。北方の乾いた芝地や明るい夏緑林の林床に生える。数本の茎を立て、基部で枝分かれする。茎は円筒形で十字対生。葉は楕円形で、鈍頭、基部は楔形で、無柄、長さ8～18mm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は5数性で、萼片は楕円形、鈍頭、長さ2～2.5mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、白色で、長さ5～6mm。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。県内では北総に点在する。

【県内の状況】銚子市(1933.6.1, 若名東一, CBM-BS-269)に分布することは古くからよく知られているが、野田市(1981.4.29, 土屋守, CBM-BS-139236)・千葉市などの内陸部でも報告されている。

【保護対策】自生地の草地进行保全することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975: 425 / 土屋守 1999 野田市の植物(1): 千生物誌 50(1): 14.

【写真】1933. 銚子市 千葉県立中央博物館所蔵標本. / 千植誌 2003: 174,165.



(天野 誠)



B マツナ アカザ科

重要保護

*Suaeda glauca* (Bunge) Bunge

【種の特性】中形の一年生草本。葉は単葉で細棒状、互生。風媒で水散布。塩湿地のゴミの集まる所に集まって生える。[Th] オカヒジキ群綱。

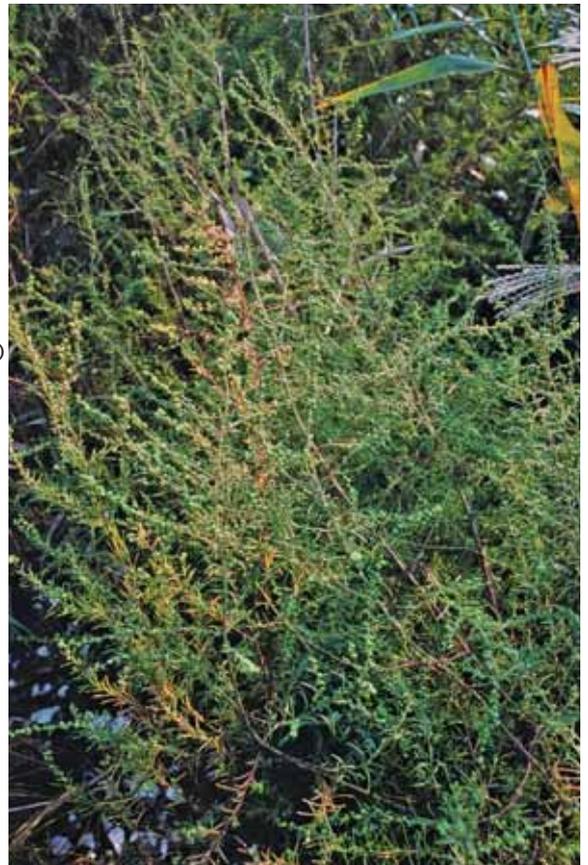
【分布】本州(関東以西)・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、プリモリア。

【県内の状況】養老川河口、小櫃川河口などに残っているが、ハママツナにくらべて生育環境が狭小である。

【保護対策】生育地が年々変動する傾向があるので、先駆的一年生草本は動的な塩湿地全体の保全が必要である。

【文献】日本の野生植物 1981 草本 2, 49 図版. / 千植誌 2003: 177,168.

【写真】1992.12.04 市原市 大場達之. (大場達之)



## B アズマイチゲ キンボウゲ科

重要保護

*Anemone raddeana* Regel

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で重力散布。早春3-4月に開花し、夏までには枯死するスプリング・エフェメラルである。主としてブナ帯の湿った夏緑林の下に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】八街市、佐倉市、旧大栄町、千葉市、君津市から採集されている。近年は本種の生育適地となる林縁の刈り取りが行われず、大型草本の繁茂によって消滅した所が増えている。

【保護対策】生育地には個体数は多いが、観賞用の採取によって一挙に絶滅する可能性がある。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 422 / 千植誌 2003 : 188, 205.

【写真】1989. 旧大栄町 谷城勝弘。  
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



## B カザグルマ キンボウゲ科

重要保護

*Clematis patens* Morren et Decne.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】夏緑藤本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で風散布。5~6月に大きな白い花をつける。地域によって青い花を付けるものも知られているが千葉県産は白花だけである。北向きの斜面下部の湿った林の林縁に生える。トコロ・クズ群目。[M]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】千葉市、船橋市、富里市、旧山武町、君津市などから記録がある。生育の適地となる林縁が放置されて藪となっている所が増えており、アズマネザサなどの大型植物が繁茂して既に絶滅したところが多い。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 1975 : 423 / 木更津みちくさ会 1978 みちくさ9 / 千植誌 2003 : 187, 195.

【写真】1998. 千葉市 大場達之。  
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B トリガタハンショウヅル キンポウゲ科

重要保護

*Clematis tosaensis* Makino

【種の特性】夏緑藤本。葉は3出複葉で互生。花は狭鐘形、花糸は密に毛がある。虫媒で風散布。夏緑林の林縁に生える。ノイバラ群綱。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山、君津市清和県民の森、鹿野山、鋸山で記録されているが開花するような大きな個体は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：423 / 千植誌 2003：188, 196.

【写真】1995.4.27 鋸山 大場達之

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B シロバナハンショウヅル キンポウゲ科

重要保護

*Clematis williamsii* A.Gray

【種の特性】夏緑藤本。葉は複3出複葉で互生。花は広鐘形、花糸はほとんど無毛。虫媒で風散布。夏緑林の林縁に生える。ノイバラ群綱。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】高宕山系で発見され、市原市、富津市、大多喜町、長柄町、鋸南町などから記録されているが、その一部はトリガタハンショウヅルの誤認の可能性がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】戸部博 1975 千葉県に於けるシロバナハンショウヅルの出現とその分類学上の意味 / 新千植誌：233-237 / 千植誌 2003：188, 196.

【写真】1985 奈良県 大場達之。

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B ヒキノカサ キンポウゲ科

重要保護

*Ranunculus ternatus* Thunb.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特 性】 小型の多年生草本。葉は互生で単葉、掌状に分裂し、茎や葉に長い毛が多い。虫媒で重力または鳥散布。オギ - ヨシ群団。ハナムグラ - オギ群集。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】 利根川水系と栗山川流域、作田川下流の湿地に生える。作田川下流では宅地造成に伴い、生育地は消滅した。栗山川中流の洪水敷には高密度に群生する地が連なる。

【保護対策】 河川洪水敷を、自然に保つことが必要である。ヨシ、オギなどの高茎草本の刈り取りと除去を定期的に行い、腐植の蓄積を防ぐことが望ましい。



【文献】 千植誌 2003 : 198, 206.

【写真】 1999.4.18 横芝光町 谷城勝弘 (大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B ノカラマツ キンポウゲ科

重要保護

*Thalictrum simplex* L. var. *brevipes* H.Hara

準絶滅危惧 (NT)

【種の特 性】 中型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。小葉の基部はくさび形で茎に鋭い稜がある。虫媒で風散。オギ - ヨシ群団。ハナムグラ - オギ群集。[H]

【分布】 本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 利根川流域の河原の湿った草原に生えるが少ない。野田市木野崎（1996.7.28, 土屋守, CBM-BS-139476）の標本などがある。

【保護対策】 河原を自然状態に保つことが望ましい。生育地では定期的な刈り取りを実施し、大型草本の繁茂を抑えることが望ましい。



【文献】 千植誌 2003 : 199, 207.

【写真】 2000 栃木県 大場達之 (大場達之 / 谷城勝弘 追補)



## B コウホネ スイレン科

重要保護

*Nuphar japonicum* DC.

【種の特性】多年生の中～大型草本。地下に太く灰白色の地下茎があり、河骨の名がついた。葉は根生し単葉で対生、水中の葉は薄く全体に波曲している、空中葉は長卵形で著しい光沢があり、下面には幼葉が縦に巻いていた時の名残が印されている。花は6～9月に咲き、地下茎から出た長い直立した柄の先に黄色で直径3～5cm、5弁の花を単生する。虫媒で水散布あるいは鳥散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】池・沼、流れの遅い川、水田の水路などに多く見られたが、現在では河川改修、圃場整理などによって激減している。

【保護対策】水路などを自然な状態に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 384、千植誌 2003 : 202,209

【写真】1999 東京都 大場達之。

(大場達之)



## B ヒメオトギリ オトギリソウ科

重要保護

*Hypericum japonicum* Thumb.

【種の特性】一年生草本。茎はほぼ直立し、あまり分岐しない。葉は倒卵形で長さ7～13mm、基部は少し茎を抱く。コケオトギリに似るが雄ずいは10～20本で離生する(コケオトギリは5～8本)。湿地性。

【分布】本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球。朝鮮、東南アジア。

【県内の状況】県内に複数の記録があるが少ない。長生村の湿地に多産したが、近年の宅地造成に伴う土地改変で生育地の多くが失われた。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 218,222。

【写真】1985 山武市 大場達之。

(谷城勝弘)



## B ヤマブキソウ ケシ科

重要保護

*Hylomecon japonica* (Thunb.) Plantl. et Kuendig

【種の特異】中形の多年生草本。葉は3出複葉で互生。4月に大きな4弁で黄色の花を咲かせる。ケヤキ林あるいは竹林などの腐植の多い湿った林の柔らかい土壌に群生する。虫媒で風散布。ブナ群網。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】佐倉市と旧山武町（町内の位置は特定できないので分布図には表示していない）などに知られる。開花時には極めて目立つので観賞用に採取される危険が大きい。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 419.

【写真】1996. 佐倉市 大場達之.

(大場達之)



## B ヤマエンゴサク ヤブケマン科

重要保護

*Corydalis lineariloba* Siebold et Zucc.

【種の特異】小形の多年生草本。地下の塊茎から高さ10～20cmの地上茎を1本伸ばし、3出複葉の葉を2枚つける。花は4～5月。青紫色で、長さ15～25mm。虫媒で自散布。低地遺存ブナ帯要素。丘陵の北斜面下部の湿った林に群れて生える。ケヤキ林の指標種。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】千葉県北部に多く分布し。コクサギーケヤキ群集。古いスギの植林地周辺にも多い。

【保護対策】カタクリ、キツネノカミソリ、ニンソウなどと共存し、丘陵の北斜面下部の湿った林に群れて生える。斜面下部の湿潤な環境をふくめた斜面緑地の総合的保全を望まれる。

【文献】千植誌 2003 : 230, 225.

【写真】

2005.4.16  
旧大栄町  
谷城勝弘.  
(大場達之)



B マルバコンロンソウ アブラナ科

重要保護

*Cardamine tanakae* Franch. et Sav. ex Maxim.

【種の特徴】小形の多年生草本。葉は羽状複葉で根際および茎下部に集まってつき羽状複葉、白い毛がある。花は4～5月。白色。虫媒で自散布。

[H] 低地遺存ブナ帯要素。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の沢沿いの湿って肥沃な林に生えるが少ない。

【保護対策】稀な生物が集まって生活する沢沿いの環境空間の体系的保全方策を練るべきである。

【文献】千植誌 2003 : 247, 243.

【写真】市原市 平田和弘。

(大場達之)



B ユリワサビ アブラナ科

重要保護

*Eutrema tenuis* (Miq.) Makino

【種の特徴】小形で冬緑の多年生草本。葉は羽状複葉で根元に集まる。花は4～5月。長い斜上する枝を出し、総状に10個ほどの白い花をつける。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】本州(関東以西)・本州・四国・九州・琉球。マレーシア。

【県内の状況】沢沿いの湿った肥沃な林に生える。千葉県では極めて少ない。

【保護対策】湿润林の保全を考える。このような植物は、それが本拠とする植物群落を保全することが本来であろう。

【文献】蒲谷肇 1994 演習林植物目録にないアブラナ科2種. 清澄 14 : 33-34. / 千植誌 2003 : 243, 250.

【写真】2004 山梨県 大場達之。

(大場達之)



B ヤブサンザシ スグリ科

重要保護

*Ribes fasciculatum* Siebold et Zucc.

【種の特性】高さ約1 mに達する夏緑の低木。夏緑林あるいはその林縁に生える。雌雄異株。数本の有髄の幹を叢生する。枝は灰褐色で、樹皮は細かく裂ける。短枝があり、刺はない。葉は互生、浅く3裂または5裂し、鋭頭。基部は心形から截形で、有柄、葉身は長さ2～3 cm、油点はない。枝先に散形花序を付ける。花は5数性。萼は車型、径3 mm。花弁は、長楕円形で全縁、黄緑色で、長さ約2.5 mm、外側に反る。雄しべは萼筒の先に癒合し、花糸はきわめて短い。雌しべは2心皮で、合生。果実は液果で、赤熟する。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】1994年に大野景德により八千代市と船橋市で発見された。2005年には廣島真知子によって千葉市でも発見された。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】大野景德 1994 八千代市植物目録：46. 八千代市歴史民俗資料館 / 大場達之 1999 千葉県のアジサイ科植物誌資料 14. / 千植誌 2003：256, 265.

【写真】1997. 八千代市 大場達之.

(天野 誠)



B コアジサイ アジサイ科

重要保護

*Hydrangea hirta* (Thunb.) Siebold

【種の特性】高さ約1～2 mの夏緑の小型低木。山地の湿った夏緑林の林床に生える。数本の有髄の幹を叢生する。茎は円筒形で十字対生。樹皮は細かく縦に裂ける。葉は楕円形で、鋭頭、大きな鋭鋸歯がある。基部は楔形で、有柄、葉身は長さ3.5～7.5 cm。枝先に密な複散房花序を付ける。装飾花はない。花は5数性で、萼片は卵形で、鋭頭、長さ約0.5 mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、薄紫色で、長さ約1.5 mm。雄しべは長さ約2.5 mmで、よく目立つ。雌しべは3心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱 [N]

【分布】本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】長生村（1965.7.25, 長生高校生物部, CBM-BS-226890）と船橋市（2001.5.30, 片山ミヤ・大河原明美, CBM-BS-181179）の標本があり、柏市に記録がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】

千植誌  
2003：  
258, 265.

【写真】

1985 神  
奈川県 大  
場達之。  
(大場達之  
/ 天野 誠  
追補)



B ツルアジサイ アジサイ科

重要保護

*Hydrangea petiolaris* Siebold et Zucc.

【種の特性】高さ約 10 m に達する夏緑の藤本。山地の明るい林縁に生える。つるは巻き付きながら、這い登る。樹皮は細かく縦に裂ける。葉は対生し、広卵形で、鋭頭、細かい鋭鋸歯がある。葉は有柄、葉身は長さ 6 ~ 12 cm。枝先に密な複散房花序を付ける。装飾花は白色、4 弁の倒卵形の萼片が目立つ。有性花は 5 数性で、萼片は低三角形で、円頭、長さ約 0.5 mm。花弁は、開花と同時に脱落する。雄しべは長さ 1.5 mm。雌しべの花柱は太くて短く 2 本、心皮の基部は癒合する。果実は朔果で、上部から裂けて、種子を散布する。夏緑藤本。葉は単葉で対生。

虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。ハルニレ群団。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、千島、朝鮮。

【県内の状況】県内の標本は未見。富津市、大多喜町、旧岬町に記録がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 258,264.

【写真】愛知県 千葉県立中央博物館 所蔵標本。

(大場達之 / 天野 誠 追補)



重要保護

B ウメバチソウ ウメバチソウ科

重要保護

*Parnassia palustris* L. var. *multiseta* Ledeb.

【種の特性】高さ 10 ~ 30 cm の夏緑の小型多年生草本。日当たりのよい湿地や水がしみ出る湿った斜面に生える。根出葉と花茎を叢生する。花茎には無柄の 1 葉をつける。根出葉は心形で、円頭、長い柄がある。葉身は長さ 10 ~ 25 mm。花は頂生する。花は 5 数性で、萼片は楕円形で鋭頭、長さ 4 ~ 7 mm、緑色。花弁は白色で卵形、長さ 7 ~ 11 mm。雄しべは 5 本。仮雄薬も 5 本で、細裂して先に黄色い腺球をつける。雌しべは 5 心皮で合生。果実は朔果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。ススキ群網。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】主として南総の丘陵と九十九里平野の湿地に点在する。

【保護対策】鑑賞目的の採取をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 258,263.

【写真】2004.10.24 山武市 能勢正代。

(大場達之 / 天野 誠 追補)



B ヤマブキショウマ バラ科

重要保護

*Aruncus dioicus* (Walt.) Fernald var. *tenuifolius* (Nakai) H.Hara

【種の特性】雌雄異株の多年生草本。高さは100 cm 近くなる。花は6～8月。葉は2回3出複葉で互生し、根出葉もある。虫媒で風散布。オニシモツケオオイタドリ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮（北部）、中国。

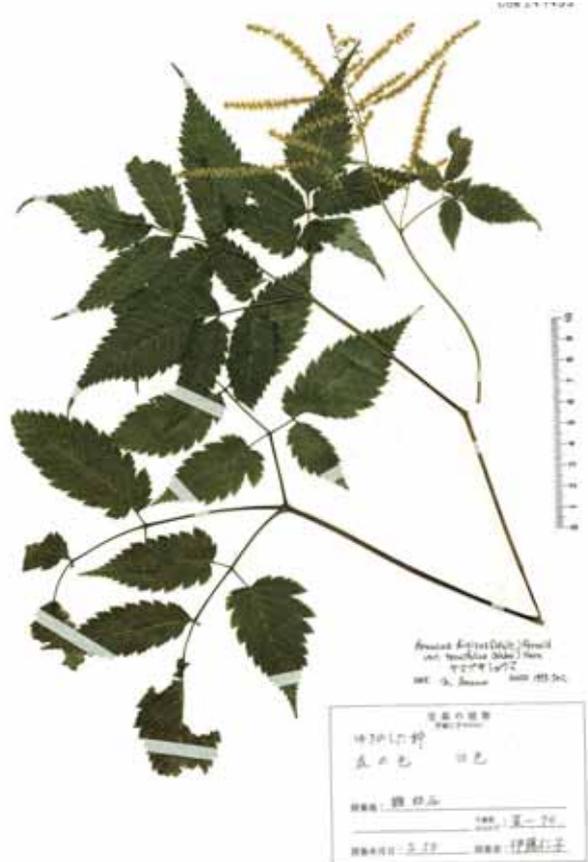
【県内の状況】県内では稀で、長南町（1975）と鋸南町（2002）で標本が採集されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 269, 266.

【写真】1975 長柄町 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(御巫由紀)



B オオダイコンソウ バラ科

重要保護

*Geum aleppicum* Jacq.

【種の特性】山地の明るい草原を好む中型の多年生草本。高さは60～100 cm。花は7～9月。茎葉は3出葉、根生葉は羽状複葉。虫媒で付着散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮（北部）、中国。

【県内の状況】県内では稀で、市原市（1989）佐倉市（2004）の標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】長田潔 1958 千生誌 / 千植誌 2003 : 275, 279.

【写真】1954.8.15 北海道 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(御巫由紀)



重要保護

*Malus toringo* (Siebold) Siebold ex Vriese

【種の特性】夏緑小高木。葉は単葉で互生。主としてブナ帯の明るい林、林縁、湿原などに生える。低地遺存ブナ帯要素。虫媒で鳥散布。ノイバラ群網。[N ~ M]

【分布】北海道・本州・四国・九州の山地。

【県内の状況】標本は東金市(1929年)、柏市正蓮寺(1989年、1995年)、柏市柏の葉こんぶくろ池(1998年)で採集されており、こんぶくろ池周辺や隣接のゴルフ場の湿地で生育しているが、東金市の現状は不明である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 292, 301.

【写真】2005.5.1 柏市 谷城勝弘.

(御巫由紀)



## B オオウラジロノキ バラ科

## 重要保護

*Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schn.

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。高さは最大10m。花は5月。低地遺存ブナ帯要素。[MM]

【分布】本州、九州(九重山)の山地。

【県内の状況】新版千葉県植物誌に、若名東一が君津市亀山で採集し、オオズミとして載っているものはオオウラジロノキである。糟谷由助(1988)が清澄山で、鶴岡繁ら(1988)が銚子市で記録している。鴨川市金山ダムでも報告がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】鶴岡繁・福田泰二 1988 銚子で新しく発見された2種の植物について. 千生誌 38(1) : 1-4 / 千植誌 2003 : 292, 301.

【写真】2002.4 銚子市 大場達之.

(御巫由紀)



B バライチゴ バラ科

重要保護

*Rubus illecebrosus* Focke

CGW152617

【種の特性】夏緑性の低木。葉は3～7小葉からなる羽状複葉。花は白色、6～7月。果実は球形ないし広楕円形で紅熟する。虫媒で食散布。[Ch]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州

【県内の状況】県内では稀で、旧富山町（1989）の標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：271, 267.

【写真】1951.6.26 静岡県 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(御巫由紀)



B ナンキンナナカマド バラ科

重要保護

*Sorbus gracilis* (Siebold et Zucc.) C.Koch

【種の特性】夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。花弁は淡黄褐色で早落性。乾きやすい尾根筋などに生える。虫媒で重力散布。[M]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国、マレーシア。

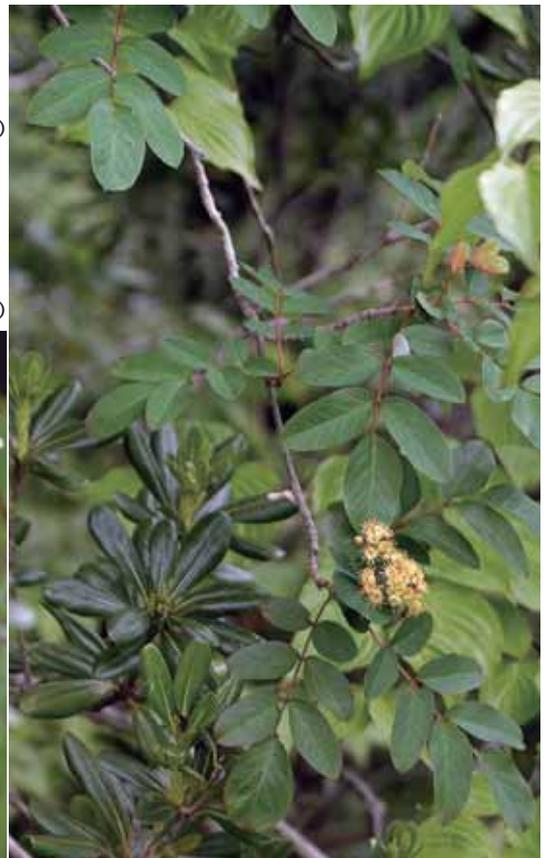
【県内の状況】報告が少なく、標本は清澄山（1929）鋸山（1997）および高宕山（2004）のみである。

【保護対策】現在の生育状況を調査する必要がある。

【文献】千植誌 2003：290, 284.

【写真】2004.5.2 高宕山 木村陽子.

(御巫由紀)



重要保護

B ハマナタマメ マメ科

重要保護

*Canavalia lineata* (Thunb.) DC.

【種の特性】多年生つる草本。海岸の砂浜または崖地に生える。葉は3出複葉で互生。花は6～8月に咲き、やや淡紅紫色。花は竜骨弁を上にして咲くことが多い。花弁は滑らか。種子は水によく浮く。虫媒で海流散布。[H]クサトベラ群団。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球・小笠原。台湾、中国。千葉県は北限にあたる。

【県内の状況】天津小湊町妙の浦から勝浦市行川岬に至る海岸沿い、鋸南町岩井袋の海岸、館山市などから生育が確認されている。

【保護対策】海岸崖地を保全することが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1954 房総半島に於けるハマナタマメの分布・採集と飼育 18(11): 143-145 / 山井 1979 冬虫夏草 14: 5-15 / 千植誌 2003: 298, 308.

【写真】1997 館山市 大場達之。  
(遠藤泰彦/大場達之 追補)



B フジキ マメ科

重要保護

*Cladrastis platycarpa* (Maxim.) Makino

【種の特性】夏緑高木。沢沿いの夏緑林に生える。高さ10～15m。葉は羽状複葉で対生。花は6～7月に咲く。花序は枝に直立し円錐花序。果実は扁平で長さ5～8cm。虫媒で風散布。[MM]

【分布】本州(東北南部以西)・四国。台湾、中国。

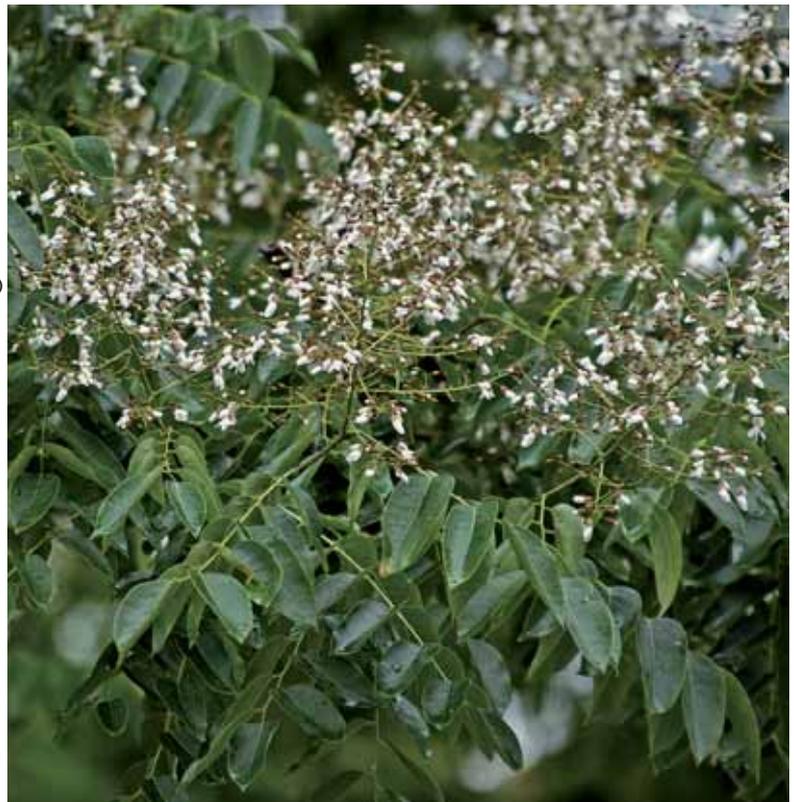
【県内の状況】勝浦市、大多喜町など房総丘陵で生育が確認されている。

【保護対策】自生環境をを保全する。

【文献】千植誌 2003: 294, 303.

【写真】2005.06.16 勝浦市 大場達之。

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



## B ミヤマトベラ マメ科

重要保護

*Euchresta japonica* Hook. f. ex Regel

【種の特性】照葉樹林内に生育する小型の常緑低木。葉は3出複葉で対生。高さ30～80cm。花は7月で、花序は頂生し総状花序に5～8個ほどの白い花をつける。果実は黒紫色に熟し、中に1個の種子を入れ、果皮は成熟後も乾燥しない。虫媒で鳥散布(?)。カクレミノ-スダジイ群目。[N]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。済州島、中国。国内では生育地が限定されている。

【県内の状況】生育地は清澄山系や養老川上流などに限定される。

【保護対策】自然林を保全することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975: 406 / 千植誌 2003: 295, 303.

【写真】1995 君津市 大場達之。

(遠藤泰彦 / 大場達之 追補)



## B イヌハギ マメ科

重要保護

*Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold ex Maxim.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】夏緑半低木。茎は高さ80～150cmで黄褐色の毛が密にある。葉は3出複葉で互生。花は7～9月に咲き、白い花を長い総状花序につける。開放花と閉鎖花をつける。虫媒で鳥散布。[H～Ch]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、ヒマラヤ。

【県内の状況】県北部を中心に点々と川原、草地、道端、造成地などに見られる。館山市でも記録されている。

【文献】千植誌 2003: 296, 305.

【写真】1993 印西市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(遠藤泰彦 / 大場達之 追補)



B ハマビシ ハマビシ科

重要保護

*Tribulus terrestris* L.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】小形の一年生草本。葉は羽状複葉で互生。乾燥した熱帯に広く分布する雑草で、亜熱帯や温帯南部などでも、夏の気温の高くなる環境にも点々と分布する。路傍あるいは畑に生える。日本のものは偶生的に海岸の砂地に生えたものであろう。虫媒で付着散布。オヒシバ群団。[Th]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。世界の熱帯と温帯。

【県内の状況】銚子の住宅地の間の空地にわずかに保全されているほか、千倉町の標本もあるがメッシュ不明である。

【保護対策】海岸の開けた明るい砂地で保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 315, 321.

【写真】1951.7.24 千倉町 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



CBM108131

B イワタイゲキ トウダイグサ科

重要保護

*Euphorbia jolkinii* Boiss.

【種の特性】大形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。岩礫あるいは礫浜の打ち上げゴミ上に生える。ツワブキ群団。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾。

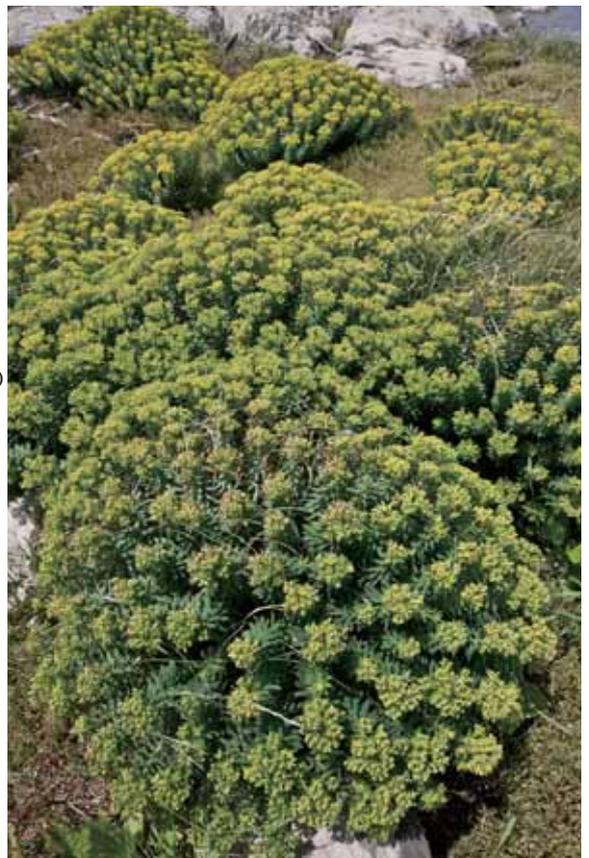
【県内の状況】館山市・白浜町など房総半島南端部の海岸に見られ、安定的な環境では大きな群落を形成している。

【保護対策】海岸において稀少植物の集まる部分は立ち入りを制限する必要があると考えられる。

【文献】斉藤吉永 1975 房総のイワタイゲキ. 千生誌 24(12) : 61. 千植誌 2003 : 328, 333.

【写真】1998 館山市 大場達之.

(大場達之)



## B センダイタイゲキ トウダイグサ科

重要保護

*Euphorbia sendaica* Makino

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】中形の多年生草本。地中に横走る根茎がある。虫媒で重力散布。葉は単葉で互生。夏緑林の肥沃な土壤に群れて生える。[H]

【分布】本州（関東以北）

【県内の状況】松戸市から採集記録があるが、これは絶滅している。また八千代市でも記録されたが自生地は開発によって失われ、栽培品だけが残っている。現在確実な自生地は富里市だけである。富里市では北向き緩やかな段丘崖の下部のスギ植林地からコナラ二次林にかけて群生している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】小松崎一雄 1951 千葉県東葛地区の植生に関する注目すべき事項。就中センダイタイゲキの分布に関して。千植誌基礎資料 1(1): 51-53 / 小松崎一雄 1965 センダイタイゲキとフラサバソウ。千生誌 12(2): 40. 千植誌 2003: 329,333.

【写真】1998. 富里市 大場達之.

(大場達之)



## B ヒナノキンチャク ヒメハギ科

重要保護

*Polygala tatarinowii* Regel

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】小形の一年生草本。高さ 4 ~ 12 cm で基部から分枝。葉は互生し、卵円形で全縁、縁に細毛がある。花は 7 ~ 10 月。枝の先に総状につき淡紅紫色。虫媒でアリ散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア、インド。

【県内の状況】乾いた草地の間の小裸地、芝生などに生える。一宮町・君津市に記録があるが、最近では君津市の一ヶ所のみ知られる。

【保護対策】現在知られている山地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003: 344, 337.

【写真】2000.10.20 君津市 大場達之.

(大場達之)



B ヒナノカンザシ ヒメハギ科

重要保護

*Salomonina oblongifolia* DC.

【種の特性】小形の一年生草本。茎は直立し、少数の枝を鋭角に出す。花は8～9月。穂状に紫色の小さな花を多くつける。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。  
[Th] ホシクサ - コイヌノハナヒゲ群団。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】湿原中の小裸地、あるいは草原の周縁の一年草群落などに生え九十九里低地に知られる。

【保護対策】自然～半自然湿原の保全。

【文献】千植誌 2003 : 344, 337.

【写真】1991.8.16 長生村 谷城勝弘.

(大場達之)



B ミヤマハハソ アワブキ科

重要保護

*Meliosma tenuis* Maxim.

【種の特性】夏緑大低木～小高木。ブナ帯下部の夏緑林に生える。

細い枝に葉を互生し、倒卵形で薄く粗い鋸歯がある。花は5～6月。淡黄色の花弁は5個であるが2個は短縮して3弁に見える。果実はゆがんだ球形で黒紫色に熟す。[MM]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】房総丘陵の沢沿いの斜面に、やや稀に見られる。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 348, 340.

【写真】2002.9.19 君津市 大場達之.

(大場達之)



## B クロツバラ クロウメモドキ科

重要保護

*Rhamnus davurica* Pall. var. *nipponica* Makino

【種の特性】夏緑低木。葉は短枝に集まってつき、倒卵形～倒卵状楕円形で長さ3～8cm。短枝はのちに棘状になる。花は5月。黄緑色。果実は黒く熟す。[MM]

【分布】本州（中・北部）、中国、プリモリア、モンゴル。

【県内の状況】柏市の湿地に稀に見られる。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 356, 360.

【写真】2001.10.17 柏市 千葉県立中央博物館所蔵標本.



(大場達之)



## B クロウメモドキ クロウメモドキ科

重要保護

*Rhamnus japonica* Maxim. var. *decepiens* Maxim.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。これまでコバノクロウメモドキとして記録されていた千葉県産のものはクロウメモドキの葉の少し小さい型と考えられる。コバノクロウメモドキは石灰岩地などに生え、葉の長さ1～3cm程度である。県内では湿地のハンノキ林の周辺や雑木林の中などに見られる。ほかではブナ帯の尾根筋、林縁、岩場などにも生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】本州・四国・九州の太平洋側。本州の日本海側と北海道には葉の大きなエゾクロウメモドキが分布する

【県内の状況】千葉市、佐倉市、柏市、八千代市、八日市場市、白井市、富里市、芝山町、市原市、旧大栄町などから報告がある。県北部に分布の重点がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】斉藤吉永 1970 コバノクロウメモドキの群落. 千

生誌 19(2) :  
66 / 新千植誌  
1975 : 399 /  
浅野貞夫 1978  
千葉県の方  
言トリトマ  
ズの分布. 植  
物採集ニユ  
ス 100 : 50. /  
千植誌 2003 :  
356, 360.

【写真】

2002.5.3 印西  
市 谷城勝弘  
(大場達之)



重要保護

B コガンピ ジンチョウゲ科

重要保護

*Wikstroemia gampi* (Siebold et Zucc.) Maxim.

【種の特性】夏緑小低木。葉は単葉で互生し、白みを帯びた緑色。。花は7～9月に咲き、花冠は筒状で先端は4裂し、薄く紅を帯びた白色。虫媒で重力散布。ススキ群綱。[Ch?]

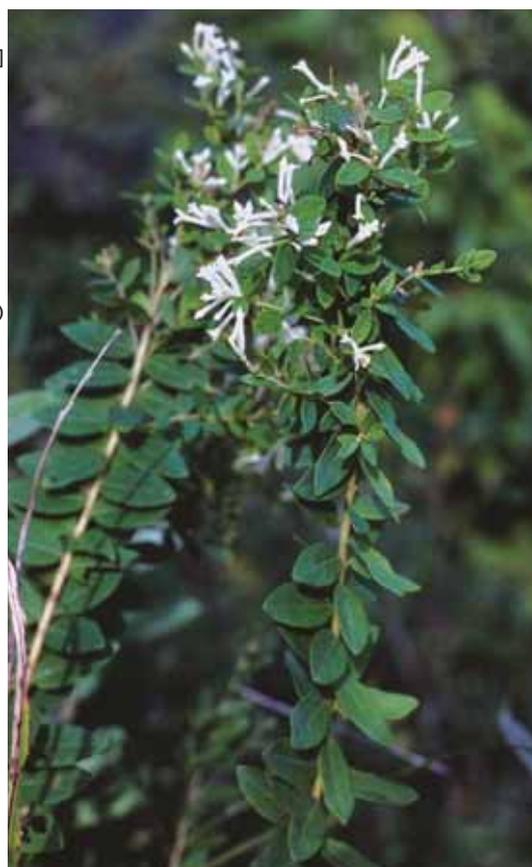
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】乾いたススキ草原などに生え、かつては広く見られたが現在は稀である。

【保護対策】半自然草原を保全する。

【文献】千植誌 2003：373,364。

【写真】1975 鹿児島県 大場達之



(大場達之)



B コミヤマスミレ スミレ科

重要保護

*Viola maximowicziana* Makino

【種の特性】小型の多年生草本。葉の表面は緑色で脈が赤色を帯びるものから暗緑色、紫色を帯びるものなど変化がある。葉や花柄には粗い毛がある。萼片は有毛で反り返る。側弁の基部には毛がある。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】南部の房総丘陵に稀。湿り気のある沢筋の林内、特にスギ林に生えることが多い。千葉県産のスミレの中では最も花期が遅い。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：379, 385。

【写真】1985.5 東京都 大場達之。

(谷城勝弘)



*Viola takedana* Makino

【種の特性】小型の多年生草本。葉の鋸歯は鋭く、先はやや尖り、両面とも粗い毛が多い。花は淡紅紫色で側弁の基部に疎らに毛がある。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国東部。

【県内の状況】丘陵地に点在する。落葉広葉樹の腐葉の多い林内や林縁に生える。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉俣武男 1993 千葉県植物目録未記載種5点について。千葉生物誌 42(2) : 64-65 / 千植誌 2003 : 380, 384.

【写真】2004 八街市 大場達之・(谷城勝弘)



## B ミズユキノシタ アカバナ科

重要保護

*Ludwigia ovalis* Miq.

【種の特性】高さ 12 ~ 25 cm の夏緑の多年生草本。主として海岸近くの明るい水湿地に生育する。茎の基部はしばしば匍匐し、不定根を伸ばす。葉はほぼ円形に近い広楕円形で、互生、基部は楔形で、短い葉柄がある。葉は全縁で、無毛。花は上部の葉腋に単生する。花は4数性で、萼片は三角形、花弁はない。果実は蒴果で、楕円球、上部から裂けて、種子を散布する。沈水形が存在する。アクアリウム・プランツとして栽培されており、都市部に生育するものについては、帰化の可能性が疑われる。虫媒で水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。台湾。

【県内の状況】主として九十九里平野に分布するが、南総の丘陵地にも点在する。

【保護対策】湿地の生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 395, 398.



【写真】  
1994.6  
茂原市  
大場達之・  
天野 誠)



B ミズキンバイ アカバナ科

重要保護

*Ludwigia peploides* (Kunth) Raven subsp. *stipulacea* (Ohwi) Raven

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】高さ30～50cmの夏緑の多年生草本。主として海岸近くの明るい水湿地に生育する。地下茎で繁殖する。茎の基部はしばしば匍匐し、不定根を伸ばす。葉は楕円形で、円頭、互生、基部は楔形で、短い葉柄がある。葉は全縁で、無毛。花は上部の葉腋に単生する。花は通常5数性で、萼片は披針形で長さ約10mm、花弁は、広倒卵形で凹頭、長さ11～14mm。果実は蒴果で、円筒形、果時に萼片が残る。上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】九十九里平野や房総半島南端部に分布するが、かつては東京湾側の平地にも分布した。

【保護対策】湿地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 395, 398.

【写真】2002.9.15 長生村 谷城勝弘.

(天野 誠)



B ヤマトグサ ヤマトグサ科

重要保護

*Theligonum japonicum* Okubo et Makino

【種の特性】小形の多年生草本で高さ10～25cm。茎に下向きの毛をつける毛条がある。葉は単葉で対生し卵形。花は4～6月。雌雄異花で、雄花は花被片3個、雄しべは20～25個で長い柄で垂れ下がる。雌花は小形で葉腋につく。風媒で重力散布。シオジ - ハルニレ群目。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】暗い湿った林の下に生え、清澄山周辺に見られたが、現在はシカの食害のため確認できない。

【保護対策】シカの頭数を適正にコントロールする。

【文献】千植誌 2003 : 406, 401.

【写真】1998. 清澄山 大場達之.

(大場達之)



重要保護

B ホタルサイコ セリ科

重要保護

*Bupleurum longiradiatum* Turcz. var. *breviradiatum* F.Schm.

【種の特性】中形の多年生草本。葉は単葉で互生し広披針形または長楕円形で、平行脈が目立ち下面は白っぽい。花は8～10月に咲き黄色。小散形花序に10～15花がつく。虫媒で、重力散布。[H] ススキ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵南部に分布し、時に海崖の草原にも見られるが、個体数は少ない。

【保護対策】無用の採集を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 424, 414.

【写真】1941 清澄山 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



B ヒメナエ マチン科

重要保護

*Mitrasacme indica* Wight

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】小形の一年生草本。茎は細く立ち上がり高さ5～15cmで少数の枝がある。葉は単葉で対生し披針形から広線形。花は8～10月。白色で花被片は4個。虫媒で風散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、熱帯アジア、オーストラリア

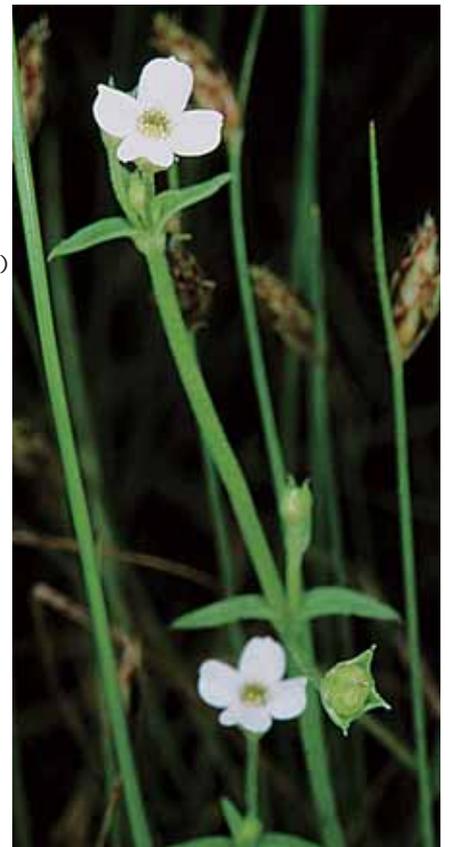
【県内の状況】湿地の小裸地などに見られ九十九里平野などに記録があるが、現在は少ない。

【保護対策】湿地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 451, 443.

【写真】2000 山武市 大場達之.

(大場達之)



重要保護

B アイナエ マチン科

重要保護

*Mitrasacme pygmaea* R.Br.

【種の特性】小形の一年生草本で高さ5から15cm。葉は単葉で対生し茎の下部に集まり、卵形～長楕円形。花は8～10月。枝の先に3～5個の花が散形状につき、白色で花被片は4裂。虫媒で風散布。ハタガヤ-イトハナビテンツキ群網。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】アイナエより乾いた裸地に生え、造成地、墓地などに生えることもある。分布は広いが普通ではない。

【保護対策】一年草の保護方を検討する必要がある。



【文献】千植誌 2003 : 451, 443.

【写真】2000.9.5 印西市 大場達之。(大場達之)



B ホソバ lindou リンドウ科

重要保護

*Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* Maxim. from. *stenophylla* (Hara) Ohwi

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。リンドウに似ているが葉が細く、茎は直立し湿原に生える。花は9～11月。ヨシ群網。[H]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】九十九里平野の湿地に見られる。

【保護対策】湿地の保全。観賞用などでの採集を防止する。

【文献】千植誌 2003 : 451, 444.

【写真】2008.10.31 成東・東金湿原 能勢正代。(大場達之)



B ハルリンドウ リンドウ科

重要保護

*Gentiana thunbergii* (G.Don) Griseb.

【種の特性】二年生草本。葉は単葉で対生し根生葉はロゼット状に集まりつく。花は4～5月。青紫色。虫媒で風散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】九十九里平野と習志野湿地に記録されているが、すでに失われた産地が多い。

【保護対策】湿地の保存。観賞用などでの採集を防ぐ。

【文献】千植誌 2003 : 452, 444.

【写真】2008.4.18 成東・東金食虫植物群落 能勢正代.

(大場達之)



B アケボノソウ リンドウ科

重要保護

*Swertia bimaculata* (Siebold et Zucc.) Hook. et Arn.

【種の特性】多年生草本。茎は直立し高さ50～80cm、多くの枝を分かち。葉は単葉で対生し卵形～披針形。花は9～10月。花は白色で、裂片の先に緑色の斑点、中部に黄緑色の腺体がある。虫媒で風散布。[Th] オオバセンキュウ - タネツケバナ属群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】日向からやや日陰の湧水湿地、沢沿いに生え房総丘陵に多い。水の停滞する平地の湿地には見られない。

【保護対策】無用の採集を防止する。

【文献】千植誌 2003 : 452, 453.

【写真】(左) 1991 旭市 大場達之 / (右)

1999.10.18 木更津市 福田洋.

(大場達之)



重要保護

## B イヌセンブリ リンドウ科

重要保護

*Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】一～二年生草本。葉は単葉で対生、やや幅広くて先端が丸みを帯びる。虫媒で風散布。湿地に生える。センブリによく似ているが全体に苦みがない。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】九十九里浜平野の長生村、旧成東町、茂原市などから多くの標本が採集されているほか、千葉市、習志野市、柏市、佐原市、富里市、八街市などからの記録もある。長生村の保護湿地内に生育している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 384./ 新千植誌 2003 : 452,453.

【写真】2001 山武市 大場達之。

(大場達之)



## B ミツガシワ ミツガシワ科

重要保護

*Menyanthes trifoliata* L.

【種の特性】多年生草本。湿地に生える。地下に横走する太い地下茎がある。葉は3出複葉で根生、小葉は長楕円形または菱状楕円形で先端はやや尖り、無毛で厚みがあり、光沢がある。花は千葉県では4～5月に咲き、白色で花冠は5裂。虫媒で水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。北半球の夏緑林帯以北に多く分布する。

【県内の状況】寒冷期からの遺存と考えられるものが、冷涼な湧水で涵養される湿地に見られるが、現在では自生地は極めて限られ、木更津市、野田市などで見られる

他、佐倉市では鹿島川沿いにあった自生地から数ヶ所に移植したものが生き残っている。かつては茂原市、成田市、東金市、袖ヶ浦市などからも記録されている。

【保護対策】現在自生している環境を保護地として維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 384。千植誌 2003 461,453

【写真】1997.5.8 木更津市 大場達之。

(大場達之)



B アサザ ミツガシワ科

重要保護

*Nymphoides peltata* (Gmel.) O.Kuntze

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生の浮葉水草。地中に横に這う根茎がある。葉は単葉で対生し水面に浮かび、円形で深心形で両縁は深く重なり、直径4～12cmで縁はやや波曲し表面はやや光沢があり、下面は紫色をおびることがある、長い柄がある。花は6～9月に咲く。花冠は5裂し黄色、直径3～4cm、裂片は縁に毛がある。虫媒で、水散布。池に生える。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、ユーラシア大陸に広く分布。

【県内の状況】やや規模の大きい池・沼に生え、印旛沼・手賀沼には多かったが、現在は生育が認められず、周辺の水路、池などに埋土種子などに由来するものが生えるのみである。

【保護対策】池・沼の水質を回復させる事が重要である。

【文献】新千植誌 1975、千植誌 2003 461,453。

【写真】

2008 成  
田市 大場  
達之。  
(大場達之)



B フナバラソウ ガガイモ科

重要保護

*Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。茎は直立し高さ40～80cm。葉は単葉で対生し下面に軟毛が密にある。花は6月に咲き濃紫色。虫媒で風散布。[G] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】かつては農地周辺の草を刈る土手斜面に多かったが、急速に減少している。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 464, 455.

【写真】2001.6.10 印旛村 谷城勝弘。  
(大場達之)



B キヌタソウ アカネ科

重要保護

*Galium kinuta* Nakai et H.Hara ex H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で輪生。虫媒で重力散布。明るい疎林の林縁などに生える。

【分布】本州・四国。中国。

【県内の状況】柏市、市川市、船橋市、鎌ヶ谷市など県北西部から確認されているが近年の確認報告はない。既知生育地ではいずれも市街化が著しく、生育地の多くは失われた可能性が高い。

【保護対策】生育地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 466,459.

【写真】柏市戸張 (右 全形) 2008.6.19 成田篤、(左 花) 2008.7.28 和田求司。

(大場達之/谷城勝弘 追補)



B ヤブムグラ アカネ科

重要保護

*Galium niewerthii* Franch. et Sav.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。やや湿った夏緑林あるいはスギ林の林床に生える。葉は単葉で輪生、縁に逆刺がない。虫媒で重力散布。オオバノヤエムグラの貧弱なものに似ているが、果実は無毛。ケヤキ群団。[H]

【分布】本州(関東)

【県内の状況】千葉市、山武市、八千代市、酒々井町、佐倉市で採集された標本がある。オオバノヤエムグラに似ているので見逃されている可能性がある。山武市の生育地ではスギ林の林床に広範な群落を形成している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975 : 368 / 千植誌 2003 : 477.

【写真】佐倉市 大場達之。(大場達之/谷城勝弘 追補)



B ソナレムグラ アカネ科

重要保護

*Hydotos biflora* (L.) Lam. var. *parvifolia* Hook.et Arn.

【種の特性】 海岸の崖地に生える小型の常緑多年生草本。茎は多く分岐して地に広がり、全体に肉質。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。ソナレムグラ・コウライシバ群団。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、熱帯アジア。

【県内の状況】 銚子市犬吠埼周辺、県南部の磯の岩崖に点在する。個体数は少ない。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 467.

【写真】 2007.7.7 銚子市 谷城勝弘.  
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B カギカズラ アカネ科

重要保護

*Uncaria rhynchophylla* (Miq.) Miq.

【種の特性】 常緑藤本。葉は単葉で対生。葉の脇に湾曲した刺をもつ。虫媒で風散布。ノイバラ群綱。[M]

【分布】 本州（千葉県以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】 清澄山系と長南町に分布する。個体数は少ない。

【保護対策】 生育地を保護することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 465 / 谷城・森 2007 内浦山自然環境保全地域の植物相・千葉県自然環境調査報告書 : 23-40. 千葉県環境部自然保護課.

【写真】 2008.8.25 清澄山  
谷城勝弘.  
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



重要保護

B オニルリソウ ムラサキ科

重要保護

*Cynoglossum asperrium* Nakai

【種の特性】高さ約 50 ~ 100 cm の夏緑の二年生草本。日陰から半日陰の林縁などに生える。根は長倒円錐形。茎は円筒形で、開出する剛毛が生える。上部で枝分かれする。葉は互生、長楕円形で、鋭頭、基部は楔形、やや薄く、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は水色、花筒は短い、径 3 ~ 4 mm で、喉部に白色の鱗片状突起がつく。果実は楕円球で、表面に鉤状に刺が生え、1 花に 4 つつく。虫媒で付着散布。[ Th ] ヨモギ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】清澄山からの記録があるのみである。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 380 . / 千植誌 2003 : 483,472.

【写真】1937 . 鴨川市 / 千葉県立中央博物館所蔵標本 .

(大場達之 / 天野 誠 追補)



B オオルリソウ ムラサキ科

重要保護

*Cynoglossum zeylanicum* (Vahl) Thunb.

【種の特性】高さ約 50 ~ 100cm の夏緑の二年生草本。日陰から半日陰の林縁などに生える。根は長倒円錐形。茎は円筒形で、伏毛が生える。上部で枝分かれする。葉は互生、長楕円形で、鋭頭、基部は楔形、やや厚く、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は水色、花筒は短い、径 3 ~ 4 mm で、喉部に白色の鱗片状突起がつく。果実は楕円球で、表面に鉤状の刺が生え、1 花に 4 つつく。虫媒で付着散布。ヨモギ群綱。[ Th ]

【分布】本州・四国。

【県内の状況】清澄山と船橋市の標本がある。また奥山(1963)には蓮沼村の写真があり、その標本が国立科学博物館に収蔵されている。

【保護対策】路傍などに偶生的に生えるものなので保護は難しい。

【文献】奥山春季 1963 原色野外植物図譜 7 : 563 / 新千植誌 1975 : 371 / 千植誌 2003 : 483, 472.

【写真】1986 神奈川県 大場達之 .

(大場達之 / 天野 誠 追補)



*Omphalodes krameri* Franch. et Sav.

【種の特性】高さ約 25 cm の夏緑の多年生草本。やや湿った明るい林床に生える。葉は地表にロゼット状に広がる。茎はほぼ直立し、円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花序は 2 つに分枝する。花冠は水色、花筒は短い、径約 7 mm で、喉部に白い鱗片がつく。果実は白くて光沢のある小堅果で、ほぼ楕円形球、背面の凹みの周囲に刺がある。虫媒で付着散布。適湿で肥沃な夏緑林の林床に生える。ブナ群綱。[H]

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】1997 年に山武町と佐倉市で確認されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。生育環境は段丘下部の極めて限られたところなので立ち入りを控えることが望ましい。

【文献】川名興・伊藤哲夫  
1979 冬虫夏草 14 / 千植誌  
484, 473.

【写真】1996.5.7 佐倉市直弥  
大場達之。

(大場達之 / 天野 誠 追補)



## B コムラサキ クマツツラ科

重要保護

*Callicarpa dichotoma* (Lour.) K.Koch

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で対生し倒卵状長楕円形。花は 7 ~ 8 月。淡紫色。果実は紫色。虫媒で鳥散布。ハンノキ群団。[N]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】湿地のハンノキ林の周辺に生え、本来の自生は少ないが、最近では庭庭木として植えられ、それから逸出したものが多い。

【保護対策】自生のある環境は園芸的に流通しているコムラサキを植えない。

【文献】千植誌 2003 : 485, 474.

【写真】2003 東京都 大場達之。

(大場達之)



## B ケブカツルカコソウ シソ科

重要保護

*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* Murata

【種の特性】やや小形の多年生草本。根際から長い匍匐茎を地表にのぼす。茎は枝分かれせず高さ10～20cmで上端に穂状に花をつける。花は5～6月。青紫色。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。茎に長い縮毛を多くつける型をケブカツルカコソウといい、千葉県では大部分この形であるが、ほとんど毛のないツルカコソウも見られる。

[H] ススキ群目。



【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】丈の低い半自然草地に生え、主として北総台地に分布する。

【保護対策】観賞用などでの採取を防ぐ。自然に近い芝生では過度の草刈りを慎む。

【文献】千植誌  
2003: 489, 493.

【写真】2003.5.5  
千葉市 福田洋.  
(大場達之)



## B ヤマトウバナ シソ科

重要保護

*Clinopodium multicaule* (Maxim.) Kuntze

【種の特性】中形の多年草。日陰の林縁あるいは林床に生える。

根際から基部が斜上する茎を数本出す。茎は高さ10～25cm。葉は対生し狭卵形で粗い鋸歯がある。花は6～9月。茎の先に集まって咲き、花冠は白色で長さ7～9mm。虫媒で風散。[H]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】1933年に亀山で採集された標本が千葉県立中央博物館にあり、2007年に高宕山で再発見された。清澄山の記録もあるが、標本は確認できない。

【保護対策】自生地の環境を保つ。

【文献】大野啓一 2008 高宕山でヤマトウバナを採集. 千植誌資料  
24: 219-220.

【写真】  
2007 高宕山 大野啓一.  
(大場達之)



B ミズネコノオ シソ科

重要保護

*Eusteralis stellata* (Lour.) G.Murata

準絶滅危惧 (NT)

【種の特異】一年生草本。葉は細長く単葉で輪生。虫媒で水散布。茎の上部で枝分かれする。水田に生える。[ Th ] タウコギ群綱。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、東南アジア。

【県内の状況】我孫子市、多古町、市原市、茂原市、富里市などで採集されているが稀である。また以前から稀であった。自生するところでは群生することが多い。特別な環境要因が必要なものか、あるいは種子分散の能力が限られているものであろう。

【保護対策】生育地の水田を従前通りに維持管理することが望ましい。

【文献】伊藤至 1967 ミズネコノオを下総に採集。植物採集ニュース 29 : 38 / 新千植誌 1975 : 376. / 千植誌 2003 : 502,498.

【写真】1990.8.18 多古町 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



B ミズトラノオ シソ科

重要保護

*Eusteralis yatabeana* (Makino) G.Murata

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特異】多年生草本。湿地に生える。葉は単葉で3-4輪生。虫媒で水散布。地中に横走る地下茎がある。虫媒で水散布。[ HH ]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】成田市、東金市、旧小見川町、東金市、多古町、市原市、茂原市、富里市、市川市などで記録されているが一部はミズネコノオの誤認のおそれがある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質・水位の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975 : 376. / 千植誌 2003 : 502,498.

【写真】1953.9.21 柏市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



重要保護

B マネキグサ シソ科

重要保護

*Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。湿った夏緑林あるいはスギ植林などに生える。葉は単葉で対生。花は濃紅紫色で白く縁取られている。虫媒で重力散布。[H]

【分布】本州(千葉県以西)・四国・九州。

【県内の状況】高宕山系から知られている。三浦半島南部にも分布するので、それと一連の産地であろう。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 508, 511.

【写真】1974 三浦半島 大場達之

(大場達之)



B ヒメハッカ シソ科

重要保護

*Mentha japonica* (Miq.) Makino

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】中形の多年生草本。茎は直立し枝分かれが少なく高さ20~40cm。葉は単葉で対生し卵状長楕円形。花は8~10月。茎の頂上に散状につき、淡紅紫色。虫媒で重力散布。[H] ヨシ群網。

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】湿地にスゲ類などに混じって生える。九十九里低地、習志野湿地(消滅)などから採集されているが、普通ではない。

【保護対策】湿原の保全。

【文献】千植誌 2003 : 504, 500.

【写真】1927.10.5 山武市  
千葉県立中央博物館所蔵標本

(大場達之)



## B イガタツナミ シソ科

重要保護

*Scutellaria laeteviolacea* Koidz. var. *kurokawae* (H.Hara) H.Hara

【種の特性】中形の夏緑多年草。茎下部の毛は開出。明るい夏緑林の林床、林縁に生える。葉は対生して裏面が紫色に染まる。花は5月に咲く。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】千葉県ではこれまでトウゴクシソバタツナミと誤られてきた植物である。確認できた産地は成田から佐原にかけての利根川沿いの丘陵である。除草剤の散布などによって衰退しているところがある。

【保護対策】耕作地以外の農道・林縁などに除草剤を散布するのは慎むべきであろう。花が美しいので山草趣味

家に選択的に採取されやすい。保護植物であることを周知すべきであろう。

【文献】千植資料 19：141-143 / 千植誌 2003：491, 494.

【写真】2003.5.31 日下総町 谷城勝弘。  
(大場達之)



## B ゴマクサ ゴマノハグサ科

重要保護

*Centranthera cochinchinensis* (Lour.) Merr. subsp. *lutea* (H.Hara) T.Yamaz.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】一年生草本。貧栄養な湿地に生える。葉は単葉で対生。茎は直立し高さ20～40cmで斜上する堅い毛がある。花は8～10月に咲き淡い黄色。虫媒で風散布。[Th] ホシクサ - コイヌノハナヒゲ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】九十九里平野、習志野などに記録されているが現在は少ない。

【保護対策】貧栄養な湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003：536, 527.

【写真】2000.8.28 長生村 谷城勝弘。

(大場達之)



## B マルバノサウトウガラシ ゴマノハグサ科

重要保護

*Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T.Yamaz.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】小形の一年草。千葉県での記録はいずれも水田で、サウトウガラシと共存する。茎は上部に腺毛があり、高さ3～10cm。葉は対生し葉柄がなく広卵形。花は7～9月に咲き淡紫色。虫媒で水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。濟州島。

【県内の状況】新千植誌1975では成田(八生)の記録があるが、稲刈り後の水田を綿密に調べることにより、佐倉市、長南町でも発見することができた。かつては広く分布していたと考えられる。

【保護対策】種子を自宅の水盤にまいたところ5年以上に亘って継続生育したので、生育条件に特別な要求のある植物とも思えない。



自家用米の水田など農薬の散布を制限した水田に見られることから、減農薬水田を維持することを望みたい。

【文献】新千植誌1975: 372 / 千植誌2003: 538, 528.

【写真】1999.9.13 佐倉市 大場達之.

(大場達之)



## B サウトウガラシ ゴマノハグサ科

重要保護

*Deinostema violaceum* (Maxim.) T.Yamaz.

【種の特性】小形の一年草。茎は上部に腺毛があり、高さ3～10cm。葉は対生し葉柄がなく広線形。花は8～10月に咲き淡紫色。虫媒で水散布。水田および自然的な湿地に見られる。自然な貧栄養湿地に見られるものは、秋に紅葉し萼片が4個でアカヌマソウとして区別されることがある。千葉県のレッドデータブックではアカヌマソウを含む広義のサウトウガラシを指定。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】南部を除きほぼ全域に見られ、耕地整理を行っていない水田に多い。

【保護対策】減農薬水田を広める。稲刈り時に稲ワラを裁断して散布する耕作法では、稲刈り後に生育する多くの小形雑草が消失し、水田周辺の生物多様性維持に問題が多い。



【文献】千植誌2003: 538, 528.

【写真】1992.10.1 市原市 大場達之.

(大場達之)



*Linaria japonica* Miq.

【種の特性】多年生草本。高さ5～15cmほどで、砂浜に匍匐して広がる。葉は単葉で対生、粉白色を帯びている。花は単黄色で唇弁はオレンジ色。茨城県以北の砂浜には普通で、千葉県は太平洋岸における南限にあたる。虫媒で風散布。コウボウムギ群団。[G]

【分布】北海道・本州・四国。朝鮮、中国、サハリン、千島、ウスリー。

【県内の状況】海流で北方から由来する種類で、銚子に記録が多く、ついで九十九里浜に点々と記録があり、御宿からも記録がある。自然的な砂浜のうち、コウボウムギ群落の中や、その周辺に生える植物なので、自然的な砂浜を保ち、海岸前線から内陸に至る植生構造を、本来あるべき動的安定状態に保つことが必要である。千葉県では自然分布の南限であり、海況などにより群落の消長が激しいが、それが自然分布の状態であるから、故意にウンランだけの個体数を増加させるような人為的干渉はつつしむべきである。

【文献】千植誌 2003 : 535, 526.

【写真】2002 茨城県 大場達之.

(大場達之)

*Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonicum* Franch. et Sav.

【種の特性】一年生草本。少し乾いた二次林に生え、アカマツ林などの酸性土壌に見られることが多い。高さ10～25cmほど。葉は単葉で対生。花は紅紫色。虫媒で風散布。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】野田市、市川市、大網白里町などの報告があるが、千葉県立中央博物館で確認できる標本はすべて野田市で採集されたものである。野田市二ツ塚で1996年6月25日に採集された標本がもっとも最近における記録である。半寄生の一年草で、貧栄養に傾いた、やや明るい林を好むので、林床の落ち葉かきなどが行われなくなった現在では、生育に好適な環境の維持が難しい。里山公園のような持続的に林床が管理できるような林を保持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 537, 527.

【写真】1981 長野県 大場達之

(大場達之)



B ハンカイシオガマ ゴマノハグサ科

重要保護

*Pedicularis gloriosa* Bisset et S.Moore

【種の特性】中形の多年生草本。暗い湿った林に生える。葉は単葉で対生し羽状に深く切れる。花は8～10月。茎は斜上し先端付近に紅紫色の花を集めつける、虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】本州（関東、中部）

【県内の状況】房総丘陵に見られるが少なくなっている。

【保護対策】観賞用などでの採取をやめる。

【文献】千植誌 2003：537,527.

【写真】2002.10.04 鋸山

大場達之.

(大場達之)



B シオガマガク ゴマノハグサ科

重要保護

*Pedicularis resupinata* L. var. *oppositifolia* Miq.

【種の特性】夏緑の半寄生性の多年生草本。ススキなどによりかかって生える。葉は単葉で対生。花は9～10月に咲き濃い紅紫色。虫媒で風散布。[H] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリア、極東ロシア。

【県内の状況】ススキ草地の衰退により著しく少なくなっている。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。また観賞用などでの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003：537,527.

【写真】2007 山梨県 大場達之.

(大場達之)



B ヒメトラノオ ゴマノハグサ科

重要保護

*Pseudolysimachion rotundum* (Nakai) Holb. var. *subintegrum* (Nakai) T.Yamaz. form. *petiolatum* (Nakai) T.Yamaz.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。[H] トダシバ - ススキ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】北部のススキ草原に知られていたがススキ草原の衰退に伴い減少している。

【保護対策】かつての牧と同様なススキ草原を、里山公園、自然公園のような形で維持することが望ましい。稀少な種だけを分類園風に植えるのは賛成できない。

【文献】千植誌 2003 : 535, 525.

【写真】1980 長野県 大場達之.

(大場達之)



B オオヒナノウスツボ ゴマノハグサ科

重要保護

*Scrophularia kakudensis* Franch.

【種の特性】大形の多年生草本。茎は4稜形で直立し高さ2mに達する。葉は単葉で対生し三角状長楕円形。花は8~10月。茎の先に集まって大きな円錐状花序をなし、花はゆがんだ壺状。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】河川敷などの湿った草原に知られてきたが少なくなっている。

【保護対策】河川敷の少なくとも一部を自然に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 536, 526.

【写真】(左) 1990.9.16 東金市 千葉県立中央博物館所蔵標本 / (右) 2001.9.15 東金市 福田洋.

(大場達之)



重要保護

B ハグロソウ キツネノマゴ科

重要保護

*Peristrophe japonica* (Thunb.) Bremek.

【種の特性】多年生草本。林床に群れて生える。葉は単葉で対生。花は7～10月に咲き紅紫色で、花被の上下の2裂片が目立つ。虫媒で自力散布。日陰の林縁。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】山武市などのスギ植林中に見られるが少ない。館山市からの報告もある。

【保護対策】目立った花をつけるので、観賞用などの採集を防止する。

【文献】千植誌 2003：542, 531.

【写真】1999.8.29 山武市麻生新田 大場達之.

(大場達之)



B イヌタヌキモ タヌキモ科

重要保護

*Utricularia australis* R.Br.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】浮遊性の1年生草本。葉は羽状複葉で対生。タヌキモに極めて似ているが、冬芽の鱗片に棘状の毛が多い。虫媒で水散布。[Th] ウキクサ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】タヌキモとの区別が微妙で、冬芽がないと確実な同定が困難なので分布の実態はあきらかではないが、タヌキモよりは多いと考えられる。

【保護対策】水田周辺などの水たまりなどを生物多様性維持のために保全する。

【文献】千植誌 2003：546,549.

【写真】2004.6 宮城県 大場達之.

(大場達之)



B ノタヌキモ タヌキモ科

重要保護

*Utricularia aurea* Lour.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特異】浮遊性の1年生草本。葉は羽状複葉で互生し、立体的に羽状に分裂し筆状になる。花は夏、花茎に鱗片葉はなく、花柄は花のあと肥厚し垂れ下がる。虫媒で水散布。タヌキモと混同されていることが多い。[Th] ウキクサ群綱。かつては水田の水路などに多く見られた。

【分布】本州・四国。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼、市川市国府台、流山市などで記録され、最新記録年は1961年、現状は不明で絶滅している可能性が高い。

【保護対策】低地において水田の排水から切り離された淡水水面を確保することが重要である。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 196-197 / 千植誌 2003 : 545, 549.

【写真】小宮定志.  
(大場達之)



B タヌキモ タヌキモ科

重要保護

*Utricularia vulgaris* L. var. *japonica* (Makino) Tamura

準絶滅危惧 (NT)

【種の特異】浮遊性の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で水散布。イヌタヌキモとの区別は冬芽の鱗片葉の形態が重要で、冬芽の形成されていない個体では区別が困難である。文献データにはイヌタヌキモが混入している可能性がある。夏頃から側枝に多数の殖芽を形成するものはチョウシタヌキモ (form. *fixa* Komiya) と呼ばれ、浅い水域に見られる。ウキクサ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、千島。

【県内の状況】かつては全域に多く見られたと考えられているが、イヌタヌキモとの区別が明らかでないため、正確な過去の状況は不明である。イヌタヌキモよりより自然的な水域に生えたと考えられている。

【保護対策】生育地の水質を保つ。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 201-212 / 千植誌 2003 : 546, 549.

【写真】(左)1965 茂原市 大場達之 / (右)1982 長野県 大場達之. (大場達之)



## B ミミカキグサ タヌキモ科

重要保護

*Utricularia bifida* L.

【種の特徴】小形の多年生草本。湿地のわずかに水で潤されている裸地に群れて生える。葉は単葉で互生。花は7～10月に咲き黄色。虫媒で水散布。[HH] ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】成東・東金食虫植物群落、茂原市～長生八積に多く見られたが現在では激減している。習志野、佐原などいくつかの既知の産地では絶滅している。

【保護対策】自然的な湿地を保護する。観賞用などでの採集を禁止する。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 179-184 / 千植誌 2003 : 545, 549.

【写真】山武市 大場達之。  
(大場達之)



## B ホザキノミミカキグサ タヌキモ科

重要保護

*Utricularia caerulea* L.

【種の特徴】小形で食虫性の多年生草本であるが一年生草本として生育する場合がある。湿地に生える。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】九十九里浜平野に知られる。習志野市でみられたものは絶滅した。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。遷移が進行すると消失するので、遷移の初期～中期段階を保持することが大切である。

【文献】小滝一夫 1950 習志野の湿地植物. 船橋高校生物クラブ研究報告誌 3 : 22-27 / Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 192-195 / 千植誌 2003 : 544, 549.

【写真】1990. 旧成東町 大場達之。  
(大場達之)



B ムラサキミミカキグサ タヌキモ科

重要保護

*Utricularia uliginosa* Vahl

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】小形で食虫性の多年生草本。葉は単葉で互生。湿地に生える。虫媒で水散布。[HH] ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。花の白い品種をシロバナミミカキグサ form. *albida* (Makino) H.Hara という。

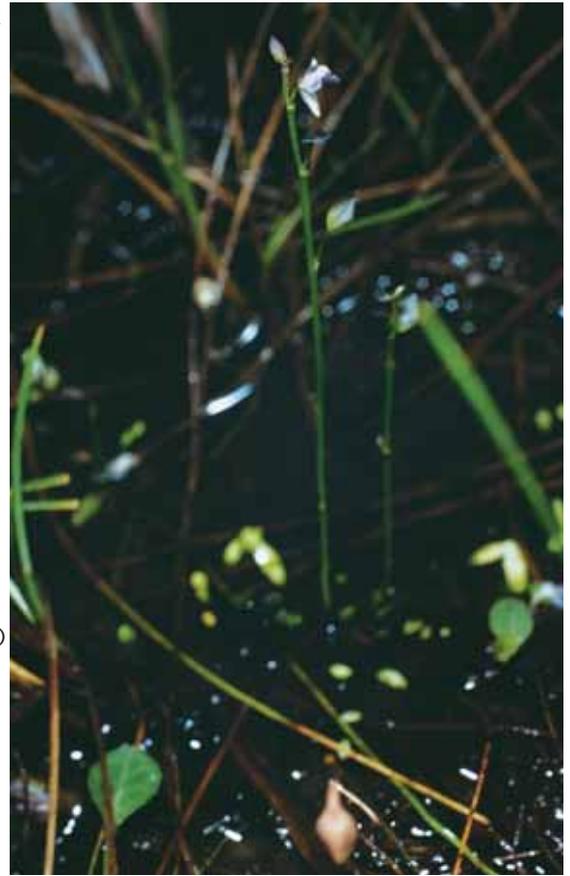
【分布】北海道・本州・四国・九州。オーストラリア。

【県内の状況】九十九里浜平野と銚子市から知られる。成東・東金食虫植物群落でも稀である。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。遷移が進行すると消失するので、遷移の初期～中期段階を保持することが大切である。

【文献】小滝一夫・大賀宣彦 1975 千葉県の食虫植物群落の生態。新千植誌：115-135 / Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 192-195 / 千植誌 2003 : 545, 549.

【写真】1990. 旧成東町 大場達之。  
(大場達之)



B ミヤマガマズミ スイカズラ科

重要保護

*Viburnum wrightii* Miq.

【種の特性】夏緑低木。夏緑林内および林縁に生える。普通高さ3～4m。葉は対生し卵形～広倒卵形、やや粗い鋸歯がある。花は5～6月。虫媒で鳥散布。ミヤマガマズミは変異が多く、千葉県のは葉が小形でやや異なった形態を持っている。さらに研究が必要である。[N]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン。

【県内の状況】清和県民の森周辺のみ知られる。

【保護対策】個体数が少ないので、保護管理を慎重に行う。

【文献】千植誌 2003 : 557, 551.

【写真】2001.9.05 君津市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



*Dipsacus japonicus* Miq.

【種の特性】大形の2年草。乾いた日当たりのよい林縁、礫の多い斜面などに生える先駆的植物で林道脇などに見られることが多い。茎は直立して高さ1.5m以上になり、茎には棘がある。葉は対生し羽状に裂ける。花は8～10月。長い枝の先に頭状花序をつけ花被は紅紫色。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】印旛村と旧富山町で採集されたことがあるのみで近年は記録を見ない。

【保護対策】すでに30年以上報告がないので、自生を確認する必要がある。千葉県のもは一時的国内帰化の可能性がある。

【文献】千植誌 2003 : 560, 554.

【写真】1982 長野県 大場達之。(大場達之)



*Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生のつる草。球状の根茎がある。茎は細く柔らかで、切れば白乳液を出す。花は7～8月頃咲き、花冠内部の上方は濃紫色である。本種によく似たツルニンジン *C. lanceolata* (Siebold et Zucc.) Travu. の花冠内部の上方は褐紫色の斑点があり、濃紫色にならない。ススキ群綱。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】県内の生育は少ない。北総域では谷津の台地斜面下方の湿度の高い所に生えるものが数個体観察されている。

【保護対策】生育に適正な環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 561, 555.

【写真】2008.9.21 印旛村 谷城勝弘。

(谷城勝弘)



B サワギキョウ キキョウ科

重要保護

*Lobelia sessilifolia* Lamb.

【種の特性】多年生草本。湿原に生える。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。1mに達する。[HH]ホソバノヨツバムグラ - 大形スゲ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】花が美しいので観賞用に採取されることが多いほか、自生地の湿地の減少のために激減した。多古光湿原には100個体を超える生育がある。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。多古光湿原は現存する最大の自生地であり、

保護の具体的措置をとることが望ましい。

【文献】千植誌 1975 : 365 / 千植誌 2003 : 563, 556.

【写真】2008.10.5 多古光湿原 谷城勝弘.

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B ヒメシオン キク科

重要保護

*Aster fastigiatus* Fisch.

【種の特性】夏緑多年生草本。茎は直立し高さ30~100cm。根生葉は花時には枯れている。葉は単葉で互生し線状披針形。花は8~10月に咲き、頭花は散房状に密に集まりつく。舌状花は白色。虫媒で風散布。[G]ヨシ群網。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、プリモリア。

【県内の状況】主に県の中~北部の湿地に記録されているが、鴨川市の嶺岡山にも知られている。湿原の開発で少なくなっている。

【保護対策】自然度の高い湿原を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 598, 585.

【写真】1963.10.20 野田市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



重要保護

B サワシロギク キク科

重要保護

*Aster rugulosus* Maxim.

【種の特性】夏緑多年生草本。茎は高さ 30 ~ 50 cm。葉は単葉で線状披針形、互生し堅く折れやすく、下面は白色を帯びる。花は 8 ~ 10 月に咲き、頭花はまばらに茎の上部につき、舌状花は白色または、花の終わりの頃やや紅色を帯びる。虫媒で水散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部の湿地に見られるが、湿地の開発で著しく少なくなっている。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 598, 585.

【写真】1972.9.10 長生村 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



B ハマアザミ キク科

重要保護

*Cirsium maritimum* Makino

【種の特性】中形~やや大形の夏緑多年草。茎は根際から分かれて地表を這う。葉は羽状に深裂し波曲する。花は 8 ~ 9 月、上向きに咲き紅紫色。総苞は長さ 25mm ほど。虫媒で海流散布。[H] ハマアザミ群集。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】鴨川市と館山市に知られているが、いずれも偶生的で、数年で波に洗われて消滅することが多い。

【保護対策】自然の砂浜あるいは磯浜の自然を保全する。

【文献】吉川代之助 1964 ハマアザミ房州に上陸。植物採集ニュース 14 : 13 / 齊藤吉永 1971 房州のハマアザミと千葉付近のウラギク。千生誌 20 : 73 / 千植誌 2003 : 577, 568.

【写真】2004.11.13 鴨川市 福田洋。

(大場達之)



## B キセルアザミ キク科

重要保護

*Cirsium sieboldii* Miq.

【種の特性】多年生草本。湿原、ハンノキ林などに生える。茎は高さ 50 ~ 100 cm で直立。葉は単葉で互生し根生葉は花時まで残りロゼット状。頭花は長い柄があって単生し、下向きに咲く。筒状花は紅紫色。虫媒で風散布。[HH] ヨシ群綱。別名マアザミ

【分布】本州・四国・九州。

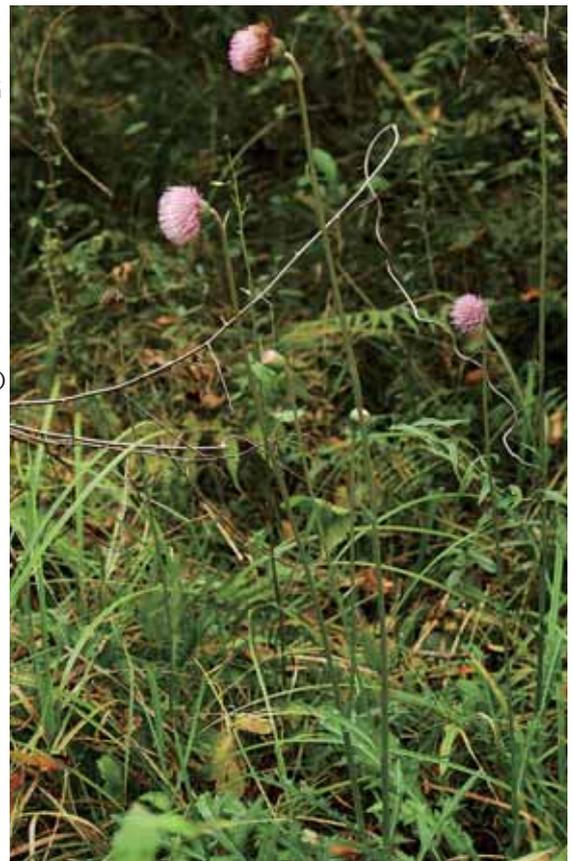
【県内の状況】かつては茂原市～長生村八積には稀でなかったが、湿地の開発によって産地が失われ少なくなっている。

【保護対策】自然度の高い湿地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 577, 568.

【写真】木更津市 大場達之。

(大場達之)



重要保護

## B アキノハハコグサ キク科

重要保護

*Gnaphalium hypoleucum* DC.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】二年生草本。痩せた草地の裸の部分に一時的に生える。茎は直立し高さ 30 ~ 60cm で、茎の上部で多く枝分かれする。葉は単葉で互生。花時には茎下部の葉は枯れている。花は 9 ~ 10 月で総苞は黄色で光沢がある。虫媒で風散布。[Th] ハタガヤ - イトハナビテンツキ群綱。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】全域から記録されているが個体数は少なく、同一箇所に継続的に観察できることは希である。貧栄養で乾燥した裸地に一時的に現れる先駆的な植物であり、環境全体の富栄養化にともなって生活域が減少していると考えられる。

【保護対策】道路法面などの緑化を適度にとどめ、自生植物が生えうる余地を残す。

【文献】千植誌 2003 : 603, 607.

【写真】1992.11.06 千葉市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



B ノコギリヒゴタイ キク科

重要保護

*Saussurea sinuatooides* Nakai var. *bosopeinsularis* T.Ohba et Yoko Kimura nov. prov.

【種の特性】夏緑線に生える。夏緑の中形多年草。茎は花時において高さ 30 ~ 70 cm、翼はほとんど認められない。根生葉は広卵形で先端は尖り、心脚で縁には粗い鋸歯があってバイオリン状の欠刻凹入はみられない。最大の葉は長さ 11 ~ 12 cm、幅 9 ~ 11 cm、花期には枯れている。茎の葉は 6 ~ 9 枚つき、下部につく葉ほど大きく、上に向かって小さくなる。葉身は広卵形で長さ 6 ~ 11 cm、幅 5 ~ 10 cm、粗い鋸歯があって、基部は心脚であるが、小形の葉では切形となる。葉の両面の脈状に縮毛がある。花は 9 月末から 10 月はじめに咲く。花序は総状から散房状。頭花は各枝に 1 ~ 3 個。総苞は卵状筒形あるいは鐘形で長さ 7 ~ 11 mm、幅 7 ~ 8 mm。白いクモ毛があり、総苞片は 5 ~ 7 列。総苞は

背面に縮毛、周辺にクモ毛があって先端は開出またはわずかに反曲する。ときに総苞中片が長く伸びるものもある。総苞外片は広卵形で長さ 3 ~ 3.5 mm。筒状花は淡い紅紫色で長さ 10 mm、狭筒部は長さ 4 mm。冠毛は長さ 7 mm。虫媒で風散布。タカオヒゴタイあるいはキントキヒゴタイに近似するが総苞が小形である。[H]

【分布】房総半島に固有な変種と考えられる。

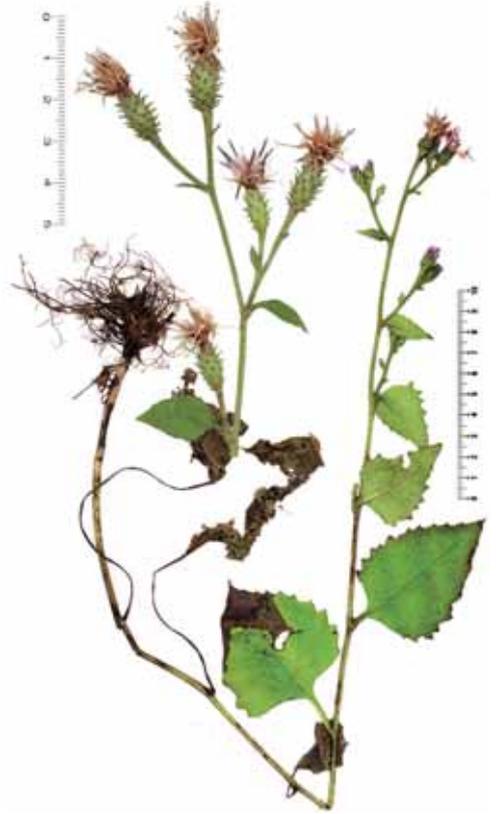
【県内の状況】最初、鋸山で発見され、君津市および館山市でも記録されている。寒冷期に房総半島に分布したタカオヒゴタイの隔離による分化と考えられる。

【保護対策】自生地の環境を現状に保存する。

【文献】大場達之・木村陽子 1996 鋸山のノコギリヒゴタイ(新称). 千資料 7 : 39-41 / 千植誌 2003 : 575, 566.

【写真】鋸南町 大場達之.

(大場達之)



重要保護

B サワギク キク科

重要保護

*Senecio nikoensis* Miq.

【種の特性】柔らかい多年生草本で茎は中空。茎は高さ 40 ~ 100 cm。葉は単葉で互生、羽状に深裂する。虫媒で風散布。花は 7 ~ 8 月に咲き、茎の上端に散房状の花序を成した、多数の頭花をつける。舌状花は黄色。冠毛は長さ 1 cm あって白色で目立つ。ブナ帯の湿った林や日陰の林縁に生える。低地遺存ブナ帯要素。[H] 別名ボロギク。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山~三石山付近から少数の採集例があるが稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 602, 606.

【写真】1982 長野県 大場達之.

(大場達之)



## B ハマアキノキリンソウ キク科

重要保護

*Solidago virgaurea* L. subsp. *leiocarpa* (Benth.) Hulten var. *ovata* Honda

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。ハチジョウアキノキリンソウに似ているが、葉の鋸歯が低く、植物体は丈が低い。鋸山の標本をもとに記載された。海岸の崖に生える。ハチジョウアキノキリンソウとアキノキリンソウの交雑種である可能性が高い。虫媒で風散布。イソギク - ハチジョウススキ群集。[H]

【分布】本州（関東南部）

【県内の状況】銚子市、鋸山、成東・東金湿原などから記録されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Honda, M. (1932) Bot. Mag. Tokyo 51 : 645.; 千植誌 2003 : 594, 584.

【写真】2005.11.6 銚子市 福田洋

(大場達之)



## B ハバヤマボクチ キク科

重要保護

*Synurus excelsus* (Makino) Kitamura

【種の特性】大形の夏緑多年草。明るい夏緑林、自然的なススキ草原などに生える。茎は高さ1~2m、茎の葉は基部心形またはくさび状円形。根生葉は長い柄があって長い三角形で基部はホコ状に尖る、長さ10~20cm。下面は、密に蜘蛛毛があって白色。花は9~10月に咲き、頭花は長い柄があって下向きに咲き、総苞は鐘状球形で長さ3~5cm、筒状花は紫色。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。

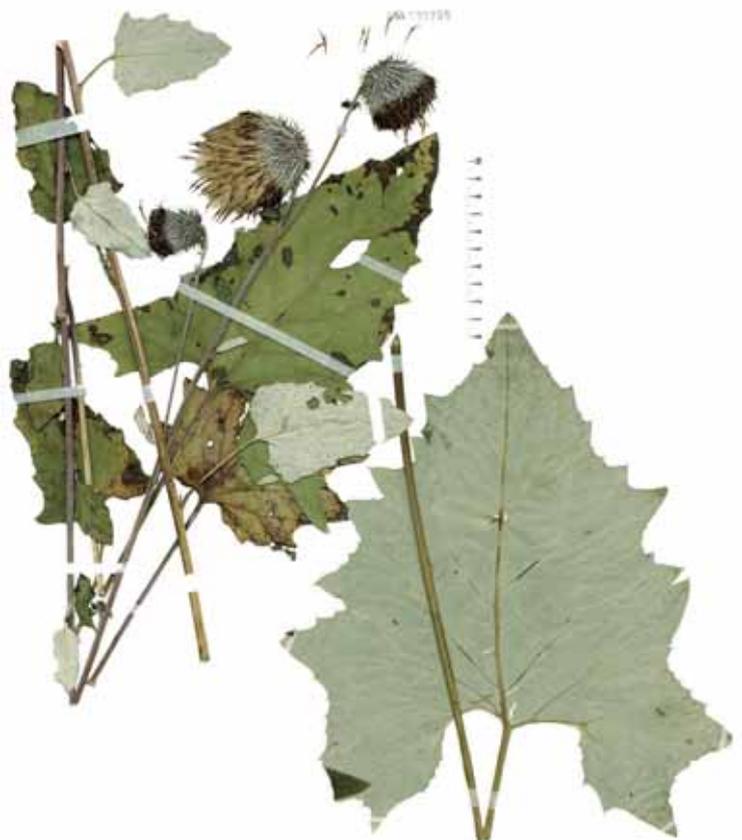
【県内の状況】主として県の北半部に分布するが、清澄山などの報告もある。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 574, 566.

【写真】1997.11.02 佐倉市（花）、1991.9.22 富里市（葉）千葉県立中央博物館所蔵標本

(大場達之)



## B オヤマボクチ キク科

重要保護

*Synurus pungens* (Franch. et Sav.) Kitam.

【種の特性】大形の夏緑多年草。茎は高さ1～1.5m、茎の葉は基部心形または切形。根生葉は長い柄があって卵形で基部は心形、長さ15～35cm。下面は、密に蜘蛛毛があって白色。花は9～10月に咲き、頭花は長い柄があって下向きに咲き、総苞は鐘状球形で長さ3cm、筒状花は紫色。虫媒で風散布。[H]

【分布】北海道・本州（中部以東）

【県内の状況】房総丘陵に分布するが少ない。県北部からの報告は八バヤマボクチの誤りである。

【保護対策】鑑賞目的などでの採集を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 574, 566.

【写真】2002.9.19 君津市 大場達之.

(大場達之)



## B サジオモダカ オモダカ科

重要保護

*Alisma plantago-aquatica* L.

【種の特性】多年生草本。主に北日本の湖沼、ため池、水路などの浅い水域または湿地に生える。単葉で互生。葉柄と葉身は境目が明瞭である。虫媒で水散布。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国。ユーラシア中部・東部、朝鮮、中国。

【県内の状況】県北部台地の谷津、川沿いに複数の記録があるが、近年は確認されないところが多い。八千代市桑納川沿いには多産地が現存する。

【保護対策】水辺環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】大野景徳・谷城勝弘 2002 八千代市の植物相とその保護について.

八千代市水辺の自然環境調査報告書 53-101 / 千植誌 (2003) : 652,643.

【写真】2008.8.31 市川市新浜 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



B スプタ トチカガミ科

重要保護

*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】沈水性の一年生草本。ため池や水路等の底土が泥質の止水域に生える。葉は単葉ですべて根生。風媒で水散布。沈水葉は線形で、長10～20cm、幅3～9mm。花は9～10月に咲く。果実の背稜には突起がない。[HH] ヒルムシロ群網。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、オーストラリア。

【県内の状況】千葉市、野田市、八千代市の報告があるが、標本で確認できるのは市原市石塚（1994.9.5 CBM-123631）のみである。従来の記録にはヤナギスプタを誤認したものが含まれている可能性がある。

【保護対策】ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 432 / 新千植誌 1975 : 476 / 千植誌 2003 : 655,644。

【写真】1994.9.5 市原市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



B コウガイモ トチカガミ科

重要保護

*Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino

【種の特性】沈水性の多年生草本。池・沼、水路等の底に生える。地下茎には小さな棘がありざらつく。秋に地下茎の先に細長いイモ状の殖芽をつける。葉は単葉ですべて根生し、長さ10～60cm、幅5～15mmで葉縁には鋭い小鋸歯がある。風媒で水散布。沈水葉は線形で、長10～20cm、幅3～9mm。花は9～10月に咲く。[HH] ヒルムシロ群網。

【分布】本州・九州。中国。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼のほか東金市の雄蛇ヶ池、佐原市の与田浦、松戸市のふれあい松戸川などで記録されているが、印旛沼など

では湖水の透明度低下のため見られなくなっている。しかし印旛沼周辺に造られた養魚場などには多量に生育しているところがある。

【保護対策】ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 432 / 新千植誌 1975 476 / 千植誌 2003 655,661。

【写真】2002.8.14 松戸市 大場達之。

(大場達之)



*Phyllospadix iwatensis* Makino

【種の特性】多年生草本。外洋に面した潮間帯下部から漸深帯上部の、小さい砂を被る岩礁に生育する。強い根茎があり節間から2本の短く太い根を出す。葉の基部が分解してできた黒色の繊維に被われている。葉は単葉で互生。雌雄異株。葉の長さは1.5mに達し、幅は0.3～0.8cm。平行脈は5本。葉は葉柄と葉身に分化していない。葉身は革質で縁辺部は透明質で翼状、葉の表面は。開花期はエビアマモとほぼ同じ2～5月。種子は錨形。牧野富太郎(1899)は、北海道と岩手県からの採集標本を*P. scouleri*と同一しスガモの和名を与えて発表した。その後、三陸海岸(岩手県陸中、宮古半島とある)で採集した

標本を*P. iwatensis*としてハイスガモの和名を与えて新種記載を行った(Makino1931)。しかし現在は、ハイスガモとスガモは同一種と考えられている。エビアマモに似ている。水媒で水散布。[HH] スガモ群集。

【分布】北海道・本州(太平洋沿岸)

【県内の状況】銚子市犬吠埼～勝浦市にかけて分布し、房総半島が南限域である。

【保護対策】生育している海域を保全することが望ましい。

【写真】2004 銚子市 大場達之

【文献】Makino, T. (1931) J. Jpn. Bot. 7(7): 15 / 千植誌 2003: 663,658. / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9-10,40-41.

(宮田昌彦)



## B ガシャモク ヒルムシロ科

*Potamogeton dentatus* Hagstr.

【種の特性】沈水性の多年生草本。湖沼、ため池等に生える。葉は単葉で互生～対生。ササバモに似るが、葉柄がほとんどない。陸生葉は作らない。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】本州(関東、滋賀)・北九州。中国。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼にはかつて緑肥に利用するほど多産したというが、両沼内では近年の急激な汚濁の進行によって絶滅した。沼周辺の工事や実験池に埋土種子による生育が確認されることがある。2002年に手賀川高水敷に掘られた実験池ではガシャモクの他、インバモ、ササバモ、ムサシモ、イバラモ、コウガイモなど沈水性の水草が多数発生し、かつての手賀沼の豊かな水生植物相を偲ばせるものとなった。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 432 / 大滝末男(1975)水生植物の分布と生態。新千植誌: 216-232 / 千植誌 1975: 478 / 斉藤吉永 1991 幻のガシャモクの出現。水草研会報 43: 24-26 / 林紀男 2005 埋土種子から蘇ったガシャモク。マジジミとガシャモクに関する調査研究報告集。5-9 / 千植誌 2003: 669,663.

【写真】1997. 沼南町 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



## B ホソバミズヒキモ ヒルムシロ科

重要保護

*Potamogeton octandrus* Poir.

【種の特性】沈水性の多年生草本。ため池や水路等に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は線形で、長さ3～5cm、幅0.3～1.0mm、浮葉は長楕円形で明るい黄緑色、長さ1.0cm、幅4～10mm。果実の背稜には突起がない。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、ウスリー。

【県内の状況】印旛沼、旧山武町、長生村、和田町での標本、記録があるが、近年は確認されていない。水路やため池の植物調査が不十分であるので、生育状況の詳細は今後の精査にまたれる。

【保護対策】ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 432 / 千植誌 1975 : 479 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 : 36 / 千植誌 2003 : 664,660.

【写真】1994.7.29 福島県 千葉  
県立中央博物館所蔵標本。

(谷城勝弘)



## B ミズヒキモ ヒルムシロ科

重要保護

*Potamogeton octandrus* Poir. var. *miduhikimo* (Makino) H.Hara

【種の特性】沈水性の多年生草本。ため池や水路等に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は線形で、長さ3～5cm、幅0.3～1.0mm。基本変種に似るが、果実の背稜は全縁。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、満州。

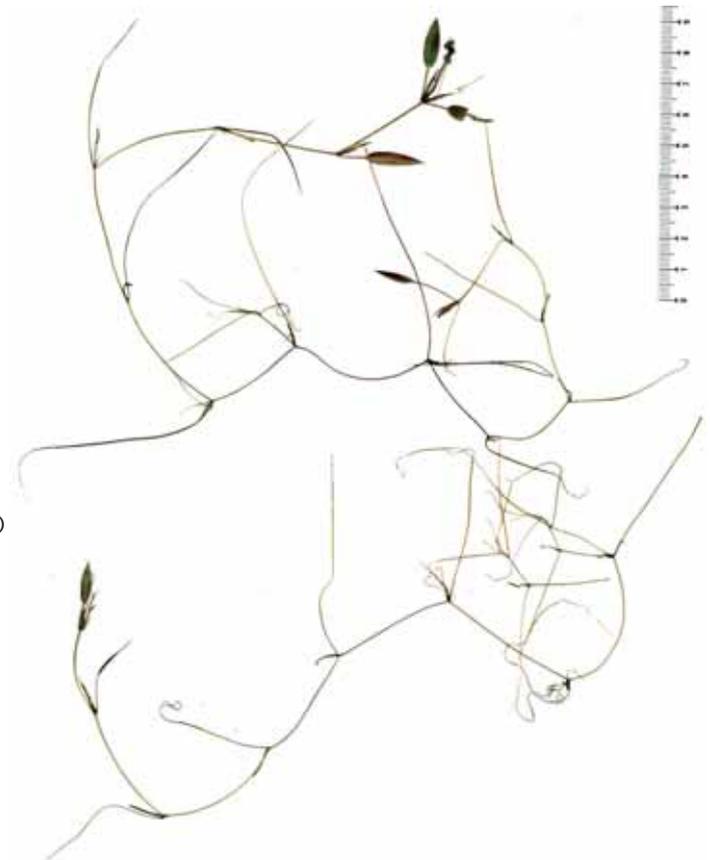
【県内の状況】安房郡豊田村 (1935.6.9、浅野貞夫, CBM-BS-183383)、松戸市古ヶ崎 (2002.8.14、木村陽子, CBM-BS-193364) の標本が千葉県立中央博物館にある。栗山川流域と一ノ宮川流域にも記録されるが、近年は確認されていない。

【保護対策】ため池や水路の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 660.

【写真】2004 宮城県 大  
場達之。

(谷城勝弘)



B リュウノヒゲモ ヒルムシロ科

重要保護

*Potamogeton pectinatus* L.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】沈水性の多年生草本。湖沼、河川（やや海岸性要素が強い）に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は針状で、縁に鋸歯がない。花茎は5～20 cmに達する。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】九十九里平野の河口部に多数の記録がある。野田市、八千代市、印旛沼にも記録されるが、近年の確認は稀である。水質の汚濁や環境の改変によって消滅した生育地が多い。近年、印西市小林の調整池に大規模の群落が確認された。

【保護対策】旧生育地や現生育地での生育可能な環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 432 / 千植誌 1975 : 479 / 千植誌 2003 : 660,664 / 千植写真 2005 : 369.

【写真】2004.7.26 印西市 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



B ムサシモ イバラモ科

重要保護

*Najas ancistrocarpa* A.Br.

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】一年生の沈水植物。茎はよく分岐する。種子は曲がり、表面に縦に長い網目模様がある。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼畔での次の採集記録がある。成田市北須賀（1985.9.12、斉藤吉永、CBM-BS-79889）、印旛沼（1985.9.14、岩瀬徹 CBM-BS-83779）、東葛飾郡昭南町手賀実験堀（2002.8.26、天野誠、CBM-BS-190859）。2008年には印旛沼畔の実験地で発生が確認された。本種の種子は横芝光町芝崎の遺跡発掘地などからもみつかっており、かつては県内の広い範囲に生育していたことが推察される。

【保護対策】埋土種子からの発生を促し、生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 671,665.

【写真】2008.11.24 成田市 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



## B ホッスモ イバラモ科

重要保護

*Najas graminea* Del.

【種の特性】一年生の沈水植物。ムサシモに似るが葉鞘の先が耳状に著しく突き出て尖る。種子は曲がらない。ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】県内各地のため池や湿地の水溜りに採集記録がある。山武市蕪木（谷城 2005.8.12, CBM-BS-274145）や千葉市小川町（谷城勝弘 2007.8.25, CBM）では水田で確認されている。農薬が多用され乾田化の進む以前には県内各地の水田（湿田）に生育していたものと推察される。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 671,665.

【写真】2007.9.18 千葉市 谷城勝弘 .

（谷城勝弘）



## B イトリゲモ イバラモ科

重要保護

*Najas gracillima* (A. Braun ex Engelm.) Magnus

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】水田、池沼、ため池などに生える一年生の沈水植物。葉身は糸状で1節から5葉を生じることがあり、種子は各節に2個つく。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】富津市豊岡字藤木（1997.10.31, 長谷川義人, CBM-BS-154770）、成田市天神峰道園場（1999.10.28, 大嶋敏昭, CBM-BS-163372）、山武郡横芝光町坂田（2007.8.30, 谷城勝弘, CBM）の標本がある。横芝光町坂田では造成地の埋土種子からの発生であった。かつては各地に生育していたと思われるが、土地の改

変や環境の変化によって激減したと推察される。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 670,665.

【写真】2007.7.31 横芝光町坂田 谷城勝弘 .

（谷城勝弘）



B オオトリゲモ イバラモ科

重要保護

*Najas oguraensis* Miki

【種の特性】池沼、ため池などの生える一年生の沈水植物。植物体は硬く、葉は2～4cmで外側に反り返る。雄ずいの葯は4室。通常は水深が20～40cmの場所に生育する。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】袖ヶ浦市不渡堰、東金市雄蛇ヶ池、手賀沼畔実験堀（谷城勝弘 1997.8.31, CBM-BS-124213）印旛沼畔実験池（谷城勝弘, 2001.8.12, CBM）での採集記録がある。袖ヶ浦市、東金市の生育地は後に消滅した。印旛沼畔の養魚池跡の実験池には現在も多く生育する。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：671,665.

【写真】2007.9.18 成田市 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



B カタクリ ユリ科

重要保護

*Erythronium japonicum* Decne.

【種の特性】多年生草本。地下深くに細長い球根があり、若年個体では葉が1枚、開花株では2枚の葉を出汁、花茎の先に1個の花を下向きにつける。虫媒でアリ散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国。朝鮮、中国、サハリン、プリモリア。

【県内の状況】段丘崖の北斜面下部に生える。県北部に分布が集中し、君津市の離れた分布が2ヶ所ある。

【保護対策】防護策などを設置しているところもあるが、鑑賞目的での盗採が著しく多く全滅寸前の場所もある。鑑賞目的での採集をしないことを徹底する。

【文献】千植誌 2003：688,682.

【写真】1998 酒々井町 大場達之.

(大場達之)



## B イワギボウシ ユリ科

重要保護

*Hosta longipes* (Franch. et Sav.) Matsum.

【種の特性】中形の多年生草本。葉は単葉で互生し根生する。花は8～9月。高さ20～40cmの花茎に総状につき淡紫色。虫媒で風散布。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】乾いた岩場に生え、県内では鋸山に見られる。

【保護対策】鑑賞目的での採集をしない。

【文献】千植誌 2003 : 686, 679.

【写真】2000 鋸山 大場達之.



(大場達之)



## B ワニグチソウ ユリ科

重要保護

*Polygonatum involucratum* (Franch. et Sav.) Maxim.

【種の特性】小形の多年生草本。ナルコユリの類に似ているが、花序の基部に一对の苞葉がある点の特徴。花は苞葉に包まれて2個の花が咲く。結実した個体の報告は極めて少なく。増殖はもっぱら根茎の伸長分岐に依存していると考えられる。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】県北部に分布が集中し、南限は市原市。クヌギ・コナラの二次林の減少と、管理の放棄で個体数は減少しつつあると考えられる。

【保護対策】鑑賞目的での採集をしない。コナラ二次林の環境を保つ。

【文献】千植誌 2003 : 674, 667.

【写真】2006.5.17 流山市 成田篤.



(大場達之)



## B ヤマジノホトトギス ユリ科

重要保護

*Tricyrtis a nis* Makino

【種の特徴】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。シイ・カシ帯上部からブナ帯下部にかけての夏緑林、スギ林などに生える。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】かなり多くの地域から報告されているが、ヤマホトトギスあるいはホトトギスの誤認が多い。千葉県では少ない植物である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】伊藤至 1962 千葉県植物誌・植物目録の追加. 千生誌 11(3): 38 / 千植誌 2003: 685, 678.

【写真】1959.9.26 群馬県 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



## B コキンバイザサ ヒガンバナ科

重要保護

*Hypoxis aurea* Lour.

【種の特徴】小形の多年生草本。葉は単葉で根生し長い毛が多い。地下に球茎がある。虫媒で重力散布。やや湿った草地にはえ、黄色い花を咲かせる。[G]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】茂原周辺の湿原および、その周辺のアカマツの植林地に多かったが、現在は激減している。市原市の市民の森でも見つかったが、これは芝の移植に伴ったものと考えられる。

【保護対策】鑑賞目的での採取を防ぐ。自生環境を保全する。

【文献】腰野文男 1959 佐原市の食虫植物. 佐原市誌シリーズ第2輯. 26. 佐原市. 千植誌 2003: 689, 683.

【写真】2001.5.16 市原市 大場達之.

(大場達之)



## B ヒオウギ アヤメ科

重要保護

*Belamcanda chinensis* (L.) DC.

【種の特性】大形の多年生草本。乾いたススキ草原や明るい夏緑樹の2次林に生える。葉は単葉で互生。種子は眞黒色。虫媒で重力散布。[H] ススキ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】よく管理された乾き気味のススキ草原に見られるが稀である。

【保護対策】花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】千植誌 2003 : 703, 695.

【写真】1999.8.22 市原市 平田和弘

(大場達之)



## B ノハナショウブ アヤメ科

重要保護

*Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai

【種の特性】中形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。[H] ホソバノヨツバムグラ - 大形スゲ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア。

【県内の状況】かつては水田周辺の湿地などに残されていたが、現在は極めて少なくなっている。

【保護対策】花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】千植誌 2003 : 703, 694.

【写真】

(大場達之)



B アヤメ アヤメ科

重要保護

*Iris sanguinea* Hornem.

【種の特性】中形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。[H]ススキ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】近年市原市、大多喜町などで確認されている。

【保護対策】花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】小松崎一雄 1973 千葉県におけるアヤメ *Iris sanguinea* Hornem. の残存。植物採集ニュース 65 : 60 / 千植誌 2003 : 703, 694.

【写真】2008.5.24 館山市 大場達之。  
(大場達之)



B ドロイ イグサ科

重要保護

*Juncus gracillimus* (Buchen.) V.I.Krecz. et Gontsch.

【種の特性】多年生草本。水中や湿地の泥中に生える。葉は鱗片状で互生。風媒で水散布。花被片は朔果より短く、先端は尖らない。[HH]ドロイ群集。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、シベリア東部。

【県内の状況】江戸川放水路では割合多く見られ、ほかには九十九里浜平野の木戸川や蓮沼村に生育する。

【保護対策】河川氾濫原の自然植生を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 705, 696.

【写真】市川市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(木村陽子)



B イヌノヒゲ ホシクサ科

重要保護

*Eriocaulon miquelianum* Koernicke

【種の特性】湿地に生える一年生草本。葉の中部幅は2～3mm。花茎は葉より著しく長い。総苞片は披針形で外片は頭花の2～3倍長い。花苞の上縁に2細胞からなる短毛がある。

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】県内に複数の記録があるが、ニッポンイヌノヒゲやイトイヌノヒゲを誤同定したものが多く含まれる。古くは若名東一による茂原市での標本がある(1957.9.29, CBM-BS-8459)。近年、香取市大戸川で記録された標本(谷城勝弘 2000.9.23, CBM-BS-175533)は、本種に酷似するが萼が黒色を帯びるイヌノヒゲモドキ *E. sekimotoi* Honda の可能性がある。

【保護対策】生育地を良好な環境に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:711

【写真】2000.10.22 山武市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B クロホシクサ ホシクサ科

重要保護

*Eriocaulon parvum* Koernicke

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】小型の一年生草本。湿地性。(湿地、休耕田) 葉は単葉で束生。虫媒で水散布。頭花は帯黒色。萼は2浅裂。雌花の花弁の内面に長毛がある。花床は無毛。子房室数と柱頭数は2と3を混生。[Th] ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】茂原市、長生村、旧成東町など九十九里平野での生育地の記録と標本がある。茂原市東部域のため池や宅地造成した場所には群生地があった。群生箇所では主としてコモウセンゴケ、ヒメナエ、アイナエ、ヒメイヌノハナヒゲ、アブラガヤ、ヒゲアブラガヤなどと混生している。宅地化の進行にともなって、生育地の多くが造成や盛り土によって消滅している。

【保護対策】生育地の環境を維持することが望ましい。また、旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが重要である。



【文献】千植誌

1958:407 / 新千

植誌 1975:453 /

谷城 勝弘 1998

クロホシクサ

生物

分科会だより 56

千葉県高等学校教

育研究会理科部会

1 / 千植誌 2003:

711,700 / 千植写

真 2005:219.

【写真】2007.9.23

茂原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B セトガヤ イネ科

重要保護

*Alopecurus japonicus* Steud.

【種の特性】1年草。春耕前の水田に多い。稈高は20～60 cm。葉は白緑色。スズメノテッポウよりやや大形。苞穎は同長で、長さ約5 mm。葯は白色で芒の長さ10～12 mmと長く目立つ。花期は4～5月。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国南部。

【県内の状況】旧夷隅町、南房総市、鴨川市、四街道市、君津市、館山市（2008）。スズメノテッポウと誤認されている可能性

もある。千葉県は本種の分布の東限に当たるせいなのか稀。

【保護対策】生育地の湿地や水田の保全。田の耕起を行う。

【文献】千植誌 2003：742, 735.

【写真】2008.4.13 館山市 大場達之.

（木村陽子）



B ヒメノガリヤス イネ科

重要保護

*Calamagrostis hakonensis* Franch. et Sav.

【種の特性】多年草。葉身は基部で反転し、裏面の方に光沢がある。小穂は黄緑色でやや光沢があり長さ4～5 mm。苞穎は同形で、護穎も苞穎と同長。護穎の背の下の方から短い芒を出す。基盤の毛は小花とほぼ同長。花期は7～10月。

【分布】北海道・本州・四国・九州。シコタン島，サハリン，中国東部。

【県内の状況】県内では上総、安房の低山の岩場に稀に生育する。

【保護対策】生育環境である低山の岩山を、これ以上なくさない。

【文献】千植誌 2003：741, 734.

【写真】1966.10.16 山武市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

（木村陽子）



## B ヌマガヤ イネ科

重要保護

*Molinia japonica* Hack.

【種の特性】多年生草本。明るい湿地や池の畔に生育する。葉は単葉で互生。風媒で風散布。40 cm にもなる大きな開いた花序を持つが、果期になると中軸によりそう。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、南千島、朝鮮、中国。

【県内の状況】近年、野田市、柏市、白井町、船橋市、茂原市などで、生育が確認されている。

【保護対策】生育地の湿地が無くならないように保護し、乾燥化を防ぐよう、地下水位を保つことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 743, 735.

【写真】2005.9.28 柏市 木村陽子.



(木村陽子)



## B ハマヒエガエリ イネ科

重要保護

*Polypogon monspeliensis* (L.) Desf.

【種の特性】1年草。海岸に近い水湿地や河川敷に生育。稈は束生し、高さ30～80cm。葉は白緑色、葉舌は白色膜質で3～8mmあり高い。円錐花序は小穂を密生し花時はやや枝を開くが、その前後は直立する。小穂は2mm、苞穎は同長でへりに長毛があり、先端が2裂しその間から直立した芒を出し、苞穎の2～3倍の長さとなる。護穎に短い芒がある。花期は5～7月。

【分布】本州・四国・九州・琉球。ユーラシア、北アフリカの暖帯、温帯。

【県内の状況】船橋市の埋め立て地や野栄町、市原市で記録されている。

【保護対策】生育環境である海岸に近い水湿地や河川敷の保全。

【文献】千植誌 2003 : 741, 734.

【写真】1959.5.31 山武市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(木村陽子)



B ショウジョウスゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex blepharicarpa* Franch.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。山地や高山に生える。森林性。基部は栗色～褐色。時に短く斜上する匍枝をもつ。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系、鋸山、高岩山などの標高 300m 付近の岩上に少数個体が生育する。ツクバスの分布域に重なるが、より尾根の上方に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 409 / 千植誌 1975 : 455 / 千植誌 2003 : 841,845.

【写真】2006.5.27 群馬県 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



B ヌマアゼスゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex cinerascens* Kük.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。湿地性（河畔）。葉は単葉で互生。風媒で水散布。アゼスゲに似るが、密に叢生して長い根茎を出し、果胞が無脈で口部が全縁であることで異なる。[HH]

【分布】本州（東北、関東）、朝鮮。

【県内の状況】1997年に栄町三和の利根川河川敷で確認された（谷城勝弘, CBM-BS-124226）。刈り取り管理の継続された過湿地にやや疎らに群生し、ヨシ、カサスゲ、オニナルコスゲ、アゼスゲ、ショウブと混生する。利根川河川敷には広範囲に分布する可能性がある。



【保護対策】刈り取り管理を継続して、遷移の進行を抑えることが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物 37-50 / 谷城勝弘 1999 千葉県新記録のスゲ属植物. 千葉生物誌 (49)1: 12-17 / 千植誌 2003 : 831,821.

【写真】1997 栄町 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



## B ミヤマジュズスゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex dissitiflora* Franch.

【種の特異】多年生草本。森林湿地性（県内では丘陵地の斜面湿地性）。葉は単葉で互生。葉幅3～7mm。小穂は長い柄があり、果胞は隔たり嘴は長い。柱頭3。全体に柔弱。風媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】平田和弘により市原市大久保(1989.5.3, CBM-BS-85742)及び大多喜町宇野辺(1996.5.25, CBM-BS-152802)で採集されている。生育地の沢沿いの斜面は薄暗く絞り水が豊富である。このような環境の所は、これまでに

詳細な調査が不十分であったため発見が遅れたと考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 平田和弘 1996 ミヤマジュズスゲを見つけた話。千植誌資料8：49-50 / 谷城勝弘 1996 調査会目録：119 / 千植誌 2003：841,845。

【写真】1995. 市原市 谷城勝弘。(谷城勝弘)



## B ヤマアゼスゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex heterolepis* Bunge

【種の特異】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞は脈も毛もなく、上端は急に短くちばしとなり、口部は2歯状。風媒で水散布。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】野田市江戸川河川敷の確認記録がある(土屋守 1983)。報告書によれば、生育地は江戸川を横切る野田線の南側のヨシ原で、ウマスゲ、アゼスゲ、エナシヒゴクサ、カンエンガヤツリなどの多くのカヤツリグサ科が見られたという。本種の生育本拠地は北関東域の山地にあり、利根川上流域に生育する個体または種子が流下して一時的に定着したものと考えられる。

【保護対策】湿地を保全することが望ましい。

【文献】土屋守 1983 千葉県野田市のヤマアゼスゲとカンエンガヤツリ。レポート日本の植物 16：149-150 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：830 / 千植写真 2003：370。

【写真】1990 群馬県 谷城勝弘。(谷城勝弘)



## B ウマスゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex idzuroei* Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞は乾くと光沢を失う。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】利根川流域や九十九里平野の低湿地の河川敷に点在する。近年、低湿地の土地改変が著しく、既知生育地の多くは消滅している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 410 / 千植誌 1975 : 456 / 千植誌 2003 : 832,823 / 千植写真 2005 : 370.

【写真】2006.5.21 山武市 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



## B ビロードスゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex miyabei* Franch.

【種の特性】多年生草本。疎らに叢生して長い根茎をつける。果胞はビロード状の毛が密生し、嘴は長い。風媒で、重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

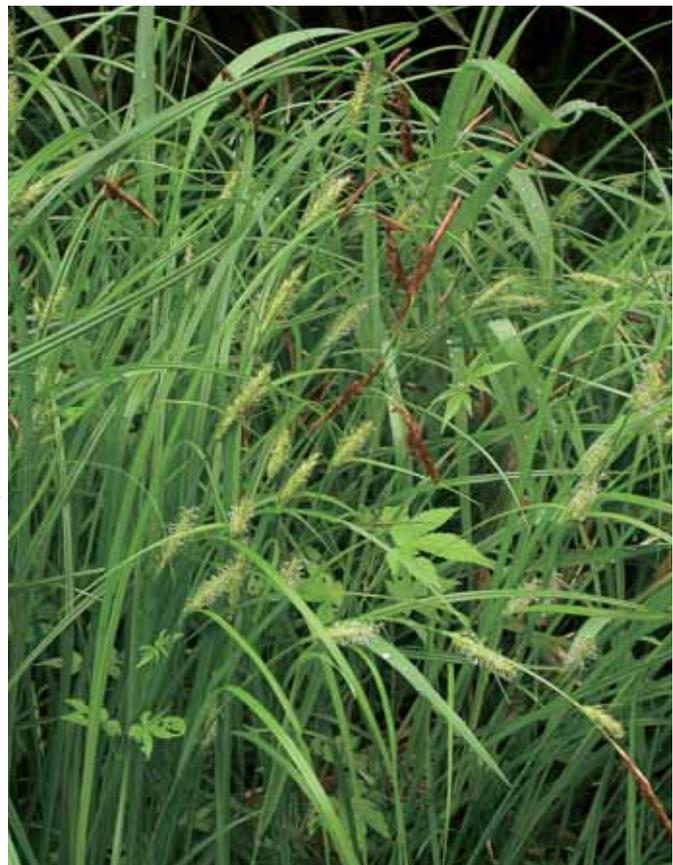
【県内の状況】佐倉市吉見の谷津奥で確認された（2008.5.11, 谷城勝弘、木村研一, CBM-BS-259784）。生育地は鹿島川支流に位置し、セイタカアワダチソウ、オギ、アズマネザサなどが繁茂する放棄湿地である。生育範囲は幅3～4m、長さ20m以上に及ぶ。

【保護対策】生育地は放置され、大型多年草の侵入が顕著である。刈り取りなどの管理を実施し、保全することが望ましい。

【文献】木村研一 2008 佐倉市においてビロードスゲを確認. 千葉生物誌 58(1): 26.

【写真】2008.5.11 佐倉市 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



*Carex ligulata* Nees

【種の特性】多年生草本。森林性。葉は単葉で互生。走出枝は出ない。茎の上方に多数の葉を密生。基部の鞘は暗血紫色。果胞は密毛あり。本種は中国、ヒマラヤ要素の種で、ヒマラヤ山脈を故郷とし、その分布の端が日本に及んだと考えられている。風媒で、付着散布。[H]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州。朝鮮、中国、インド。

【県内の状況】高塚山に産することが古くから知られている。山頂付近に複数の小群落の形成箇所がある。近年、周辺域にも点在することが明らかになった。本種分布の北限地は南房総市（旧千倉町）大井倉の崖地植生自然環境保全地域内にみられる2㎡程度の小群落である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について. 千植誌 1958 : 172-194 / 千植誌 1958 : 411 / 新千植誌 1975 : 457 / 千植誌 2003 : 854,848.

【写真】1996 千倉町 大場達之.  
(谷城勝弘)

*Carex ligulata* Nees 1999/05/27 千倉町大井倉



*Carex rochebrunii* Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。マスクサに似るが、果胞は細長く、翼は狭い。柱頭2。低地、風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国。台湾、マレ-シア。

【県内の状況】地域のフロラ調査などに記録があるが、マスクサを誤同定したものが多く含まれる。標本は我孫子市上根古谷、千葉市大宮町、佐倉市弥富がある。我孫子市上根古屋古利根沼畔の2個体は消滅した。佐倉市弥富の谷津奥は大型個体が大群落をなしている。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。旧生育地では埋土種子からの発生が期待できるので、改変を加えないことが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 412 / 千植誌 1975 : 459 / 千植誌 2003 : 829,804 / 千植写真 2005 : 370.

【写真】2005.7.3 千葉市 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



## B アブラシバ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex satsumensis* Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。山地の荒れた裸地または河畔の砂礫地に生える。細長い地下走出枝があり、葉は単葉で互生。小穂は茶褐色を帯びてべたつく。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。台湾、フィリピン、インド。

【県内の状況】船橋市神保町（1977.5.19, 吉川代之助, HCM）と市原市大福山周辺に生育が知られる。船橋市は人口集中による土地の改変が著しく、生育地は消滅したと思われる。大福山では崖の崩落箇所数箇所に数個体が生育している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】吉川代之助 1977 「新版千葉県植物誌」に加えるアブラシバとタチシオデ。植物採集ニュース 93 : 113 / 吉川代之助 1979 船橋市野外植物目録 / 谷城勝弘 1992 調査会目録 : 163 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物 : 37-50 / 平田・田辺 1996 大福山周辺の自然環境・千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 217-225 / 谷城勝弘 1996 調査会目録 : 118 / 千植誌 2003 : 832,823. / 千植写真 2005 : 371.

【写真】1995.6.11 市原市 谷城勝弘。  
(谷城勝弘)



## B アズマナルコ カヤツリグサ科

重要保護

*Carex shimidzensis* Franch.

【種の特性】多年生草本。山地の湿水性。葉は単葉で互生。茎は太く基部は肥厚する。果実の熟期は5月下旬から6月で、他のスゲ類より遅れる。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】県内では初め市原市大久保で確認され（1995.6.11, 谷城勝弘, CBM-BS-92886）後に清澄山系、高宕山系を含む房総丘陵の湿潤な斜面や川沿いに複数の生育地が確認された。本種は類似した環境に生育するテキリスゲ *C. kiotensis* Franch. et Sav. に似ており、混同されることが多い。群生して生える所はなく個体数は限られる。

【保護対策】斜面湿地や細流沿いの環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1996 調査会目録 : 118 / 谷城勝弘 1999 千葉県新記録のスゲ属植物・千葉生物誌 49(1): 12-17 / 千植誌 2003 : 831,821.

【写真】2006.5.13 君津市 谷城勝弘。  
(谷城勝弘)



## B ニイガタガヤツリ カヤツリグサ科

重要保護

*Cyperus niigatensis* Ohwi

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特異】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。鱗片の先は鈍頭で中肋は突出しない。果実は楕円形で稜は膨れた翼状。風媒で水散布。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】県内では初め東金市の雄蛇ヶ池畔で確認された(1989.10.10, 谷城勝弘, CBM)。池の岸辺が干上がって底土が露出した所にアオテンツキ、ヒメアオガヤツリ、シロガヤツリ、アオガヤツリなどの一年生のカヤツリグサ科が大群落を形成し、これらに混在して数個体のニイガタガヤツリが確認された。水深の浅い岸辺は、降雨や湧水により冠水を繰り返している。

このことが大型草本の侵入を阻害し、一年生草本の生育を維持している。茂原市三ヶ谷(2008.10.11, 谷城勝弘, CBM)、睦沢町大上(2004.2.4, 谷城勝弘, CBM-BS-268220)、いすみ市中原(2008.10.18, 谷城勝弘, CBM-BS-274407)のため池にも生育する。

【保護対策】ため池を保全し、維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録: 174 / 千植誌 2003: 896,888.

【写真】2004.10.2 睦沢町 谷城勝弘。

(谷城勝弘)



## B キンガヤツリ カヤツリグサ科

重要保護

*Cyperus odoratus* L.

【種の特異】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂の各小花間に関節がある。穂は熟して黄褐色となる。果実は扁平で倒卵形。湿地性。[H]

【分布】本州(関東地方)・四国・琉球、小笠原。

【県内の状況】県内における従来の記録は本種とその近縁種を区別しなかったため多数の記録があるが、県北部と利根川流域に記録される大多数のものはホソミキンガヤツリ *C. engelmannii* Steud. である。キンガヤツリの県内における生育地は館山市の標本のみを確認している。古くはキンガヤツリが利根川流域にも生えていた可能性は否定できないが標本は見出せない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 413 / 伊藤至 1971 千葉市内のムツオレガヤツリとウラギク。植物採集ニュース 53 / 伊藤至・五十嵐幸 1971 房総植物図譜キンガヤツリ。千葉生物誌 53 / 千植誌 1975: 459 / 斉藤吉永 1988 利根川河川敷のキンガヤツリ。レポート日本の植物 35 / 斉藤吉永 1989 千葉県下のキンガヤツリ。千葉生物誌 38(2): 57 / 千植誌 2003: 895.

【写真】2008.11.29 館山市 大場達之。

(谷城勝弘)



## B ヤリハリイ カヤツリグサ科

重要保護

*Eleocharis congesta* D.Don var. *subvivipara* Fisch.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。穂は線状披針形で結果率は極めて低い。湿地性。[ Th ]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、インド。

【県内の状況】若名東一による銚子（メッシュは特定できない）での記録があるが、その後は確認されていない。稔性の低さや細長く伸びる穂の形状から判断して、雑種の可能性がある。谷城が成田市南羽鳥で1990.7.20に採集した複数株のコセイタカハリイの中にヤリハリイと考えられるものが含まれていた。（谷城2003）



【保護対策】近年急激に減少し続ける湿地を良好な状態で維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 千植誌 1975 : 460 / 千植誌 2003 : 868.

【写真】1998 成田市 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



## B オオヌマハリイ カヤツリグサ科

重要保護

*Eleocharis mamillata* Lindb.f. var. *cyclocarpa* Kitag.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。稈は2～5mmで中空で柔らかい。刺針は果実の2倍長。花柱脚は扁平な三角。[ HH ] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、濟州島、中国、北欧。

【県内の状況】県内に複数の記録があるが、コツヌマハリイ、クロハリイ、セイタカハリイなど他のハリイ属を誤同定したものが多く含まれる。県内産唯一の標本は香取郡多古町船越（1997.5.24, 谷城勝弘, CBM-BS-125082）である。生育地の栗山川沿いの休耕地では確認当時2m<sup>2</sup>程度の範囲を占めていた。休耕地は毎年数度の耕運が実施され、水位は常に高く維持されており、ミズニラ、クロハリイ、オオハリイ、タタラカンガレイ、チョウセンハリイなどの生育が同所的に確認された。現地は後にヒメガマ、ヨシなどの高茎草本の侵入による遷移が進み、個体は消滅した。一部が横芝町湿性植物園に移植されて保護、育成されている。



【保護対策】生育地の環境を維持する方策を検討することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 460 / 千植誌 2003 : 867,871.

【写真】2006.7.30 長野県 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



## B コツブヌマハリイ カヤツリグサ科

重要保護

*Eleocharis parvinux* Ohwi

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特異】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果実は1～1.2mm。刺針は4個で硬く直立し、果実の3倍になる。風媒で水散布。[HH]

【分布】本州（関東地方）

【県内の状況】手賀沼、印旛沼流域を中心とする利根川水系及び茂原市～長生村八積に生育する。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。現生育地の環境を良好に維持する。



【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 460 / 千植誌 2003 : 867,872.

【写真】2007.5.5 成田市 谷城勝弘.  
(谷城勝弘)



## B マシカクイ カヤツリグサ科

重要保護

*Eleocharis tetraquetra* Nees

【種の特異】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。シカクイに似るが、茎は真四角で根茎は短く這う。小穂の表面はシカクイよりも滑らか。熟期は9月下旬から10月で、ハリイ属の中では最も遅い。風媒で水散布。[HH] ホソバナヨツバムグラ - 大形スゲ群団。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、台湾、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

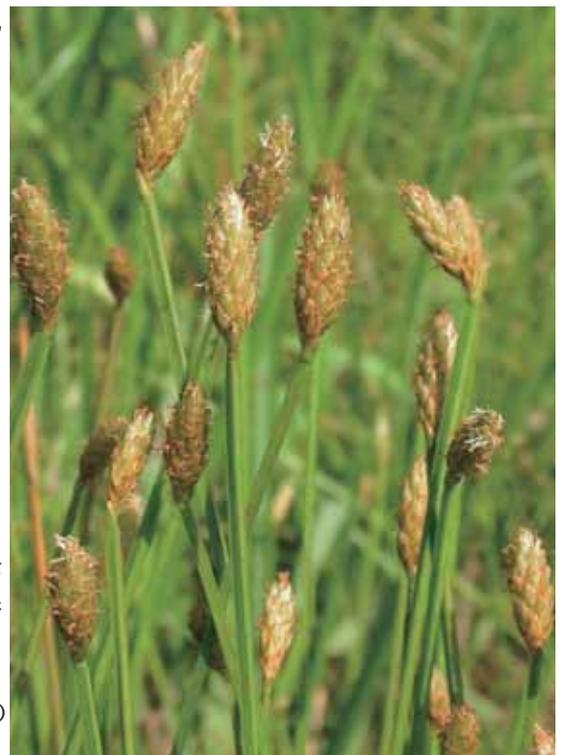
【県内の状況】県内では、初め成東・東金食虫植物群落で発見された(1988.9.30, 岩瀬徹, CBM-BS-144455)。後に酒々井町柏木、多古町中村新田、横芝光町坂田で確認された。横芝光町は生育地の休耕地が耕作水田に転用となり個体は消滅したが、坂田池湿地性植物園に移植されて育成されている。酒々井町では放棄田の遷移が進んで個体数は減少している。



【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岩瀬・谷城 1987 成東・東金食虫植物群落保護増殖事業報告書 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 7-56 / 谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 9-87 / 岩瀬徹 1996 調査会目録 : 2 / 千植誌 2003 : 877 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29.

【写真】2003.9.14 山武市 谷城勝弘.  
(谷城勝弘)



B ミツカドシカクイ カヤツリグサ科

重要保護

*Eleocharis wichurae* Boeck. form. *petasata* H.Hara

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。シカクイに似るが、稈は三稜。風媒で水散布。[HH]

【分布】北海道・本州。中国、カナダ。

【県内の状況】県内では初め多古光湿原で確認された（1989.6.15、谷城勝弘、CBM-BS-142939）。後に海上町前野の崖湿地に確認された（1991.11.2、谷城勝弘、CBM-BS-91821）。生育個体数は少なく、群落の遷移の進行により消滅寸前である。



【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：177 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：252 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：118 / 千植誌 2003：877 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29。

【写真】1991.9.19 旧海上町 谷城勝弘。

(谷城勝弘)



B イヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Rhynchospora chinensis* Nees et Meyen

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。オオイヌノハナヒゲに似るが刺針はそれより短く、密に上向き粗造。風媒で付着散布。[H] ホシクサ - コイヌノハナヒゲ群団。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、インド、マレ - シア。

【県内の状況】県内では長生村藪塚～茂原市大芝の湿地が現存する唯一の生育地である。藪塚の湿地には、多数個体が高密度で生育していた。この群落はオオイヌノハナヒゲ、ヒメイヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、ゴマクサ、ヒメナエ、アイナエ、コモウセンゴケ、トキソウなど本県での希少種を複数交え、貴重な群落であった。その場所が工場用地として埋め立てられることになり、群落を含む表土の一部を近隣の尼ヶ台公園に移植し、維持管理することになった。



【保護対策】湿地の環境を良好に管理、維持することが望ましい。湿地性植物の保護には、刈り取りなどの人為的管理が不可欠である。適切な管理体制をつくることを望ましい。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：184 / 岩瀬・谷城 1992 千葉県長生村藪塚に残存する湿地群落：11 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：171 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：253 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：122 / 野口昭造 1996 調査会目録：114 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千葉生物誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：859,850。

【写真】1990.8.28 長生村 谷城勝弘。

(谷城勝弘)



## B イトイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Rhynchospora faberi* C.B.Clarke

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果実は広倒卵形で刺針は太く、下向き粗造。風媒で付着散布。[H] ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】成東・東金食虫植物群落と長生村藪塚周辺の湿地に生育する。近似種のコイヌノハナヒゲ、ヒメイヌノハナヒゲ、イヌノハナヒゲなどと混生することが多いので、確認には精査を要する。個体数は極めて少ない。従来の記録はヒメイヌノハナヒゲを誤同定したものが多く含まれる。

【保護対策】定期的な刈り取り管理を継続し、湿地群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 417 / 千植誌 1975 : 462 / 千植誌 2003 : 859,850.

【写真】1990.8.28 長生村 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



## B ヒメイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Rhynchospora faberi* C.B.Clarke form. *umemurae* Ohwi et Koyama

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は5～6mm。果実は広倒卵形で長さ2mmくらい。刺針は6本でやや太く、上向粗造。風媒で付着散布。[H] ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】千葉県植物誌(1958)に茂原市、一松(長生村)の記録がある。近年、成東・東金食虫植物群落、長生村藪塚周辺湿地に多産することが確認されている。茂原市～長生村には、改変されることなく残されてきた小湿地が点在しており、このような所に本種の生育が確認されるが遷移の進行に伴って衰退しているところが多い。

【保護対策】現生育地の環境を良好に維持することが望ましい。旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な湿地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 417 / 千植誌 1975 : 462 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千葉生物誌 48(1) : 6-22 / 千植誌 2003 : 859,850

【画像】1990.8.28 茂原市 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



B オオイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

重要保護

*Rhynchospora fauriei* Franch.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。イヌノハナヒゲによく似ているが、刺針はそれより長く、ほぼ平滑である。風媒で、付着散布。[HH] ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。

【分布】北海道・本州・九州。イヌノハナヒゲよりも寒冷地を分布の本拠としている。

【県内の状況】千葉県植物誌（1958）に旧成東町、旧日向村、新版千葉県植物誌（1975）に旧山武町、旧成東町、養老溪谷の記録がある。現在は長生村ニヶ台（同村藪塚から移植）と成東・東金食虫植物群落にのみ少数個体が確認される。古い記録は近似種の誤同定の可能性もある。

【保護対策】現生育地の環境を良好に維持し、適切な管理をすることが望ましい。旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 417 / 千植誌 1975 : 462 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千葉生物誌 48(1) : 6-22 / 千植誌 2003 : 857,850.

【写真】1992 長生村 谷城勝弘.  
(谷城勝弘)



B コマツカサススキ カヤツリグサ科

重要保護

*Scirpus fuirenoides* Maxim.

【種の特性】多年生草本。湿地性葉は単葉で互生。マツカサススキに似るが、小穂塊の数が少なく、鱗片は卵形で幅 1 ~ 1.3 mm あり、頂花序は 1 回分岐するのみである。。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内に複数の記録があるが、小型のマツカサススキ *S. mitsukurianus* Makino を誤同定したものが含まれる。確認し得た標本は次のものである。八街市駒返（1932.9.26, 若名東一, CBM-BS-1031）、日向村椎崎（1933.8.19, 若名東一, CBM-BS-1335）、印旛郡久住村（現成田市）倉水（1950.7.23, 若名東一, CBM-BS-5590）、市原市千原台（1991.10.18 今井節子 CBM-BS-33694）、成田市米野（1992.8.8 谷城勝弘, CBM-BS-190199）。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 418 / 千植誌 1975 : 462 / 千植誌 2003 : 884,885 / 千植写集 2005 : 371.

【写真】2000.8.19 栃木県 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



## B カガシラ カヤツリグサ科

重要保護

*Scleria caricina* (R.Br.) Benth.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】小型の一年生草本。湿地性。日当たりの良い裸出した地表に生える。葉は単葉で互生。風媒で、水散布。ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・琉球。台湾、熱帯アジア。

【県内の状況】九十九里平野の湿地を中心に多産したと推測されるが、開発と圃場整備に伴う環境の改変で生育の適地となる湿地が急減した。現在では成東湿原や九十九里平野南部域の湿地に少数個体が確認されるにすぎない。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。湿地群落の遷移の進行を抑えるために刈り取りなどの管理を継続することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 463 / 千

植誌 2003 :  
856,898.

### 【写真】

2003.9.19 山  
武市 谷城勝  
弘。  
(谷城勝弘)



## B コシンジュガヤ カヤツリグサ科

重要保護

*Scleria parvula* Steud.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。葉鞘は翼がある。果実には網状隆起がある。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、インド、マレシア。

【県内の状況】九十九里平野のほか県北の低湿地に複数の記録がある。現在生育が確かめられるのは多古町次浦の湿地及び成東湿原、長生村尼ヶ台総合公園（藪塚から表土を移植）であり、本種の生育地の多くが環境の変化と土地の改変によって失われた。

【保護対策】1990年代までは多古光湿原、横芝光町乾草沼に多産箇所があった。旧生育地には埋土種子が残っているので生育可能な環境を創出することが望ましい。表土の攪乱や大型草本の刈り取りを行うことが発芽を促す有効な手法であろう。

【文献】千植誌 1958 : 418 / 新千植誌 1975 : 463 / 千植誌 2003 : 857 / 千植写真 2005 : 371.

【写真】2000.8.19 栃木県 谷城勝弘。

(谷城勝弘)



B クゲヌマラン ラン科

重要保護

*Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。花は白色、ギンランに似るが花は一回り大きく、距が短く、内花被片が外花被片より短かく、唇弁基部の色彩の状態が異なる。またササバギンランにも似るが、花序基部の葉は、花序より短い。虫媒で風散布。クゲヌマランの原産地では海岸付近の砂丘のクロマツ林の下に生えるが、近年神奈川県と千葉県では埋め立て地の植栽林や、内陸のコナラなどの二次林の下などに群生するのが発見されている。[G]

【分布】本州・四国。神奈川県の高沼海岸で発見命名され、その後青森県から四国に至る太平洋岸から報告されている。ユーラシアに広く分布する *Cephalanthera longifolia* L. と同一種と考えられる。

【県内の状況】千葉県植物誌(1958)に「久内清考氏によれば前川文夫博士、一宮?に採るといふ」とあるが、東京大学資料研究博物館には標本は存在しない。しかし2007年に千葉市の埋め立て地のクロマツ、スタジイ、マテバシイなどの植栽地で、キンラン、ギンランなどと共に大量に生育しているのが発見され、2008年春の調査では船橋市、市川市などでも発見されている。植栽地の土壌環境などが、20年ほどの年月で、クゲヌマランおよびそれら共生する菌類の生育に好適な条件に変化したものと推定される。その状況からすると今後分布地および個体数は増大すると推定される。

【保護対策】植栽木の維持管理をこれまでと大きく変えず、鑑賞目的などでの採集を控えれば維持は容易と考えられる。

【文献】前川文夫 1971 原色日本のラン: 203 / 新千植誌 1975: 442 / 大野啓一ほか 2008 クゲヌマランが千葉市内に多産. 千植資料 24: 213.

【写真】2008 千葉市 大場達之.

(大場達之)



B ナギラン ラン科

重要保護

*Chamerion angustifolium* (L.) Holub

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】常緑多年生草本。照葉樹林の林床に生える。葉は単葉で、光沢のある2枚の葉をつける。花は夏の終わりに咲き、緑白色で唇弁に紅紫色の斑がある。虫媒で、風散布。[H] カクレミノ-スタジイ群目。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国南部、インド、マレーシア。

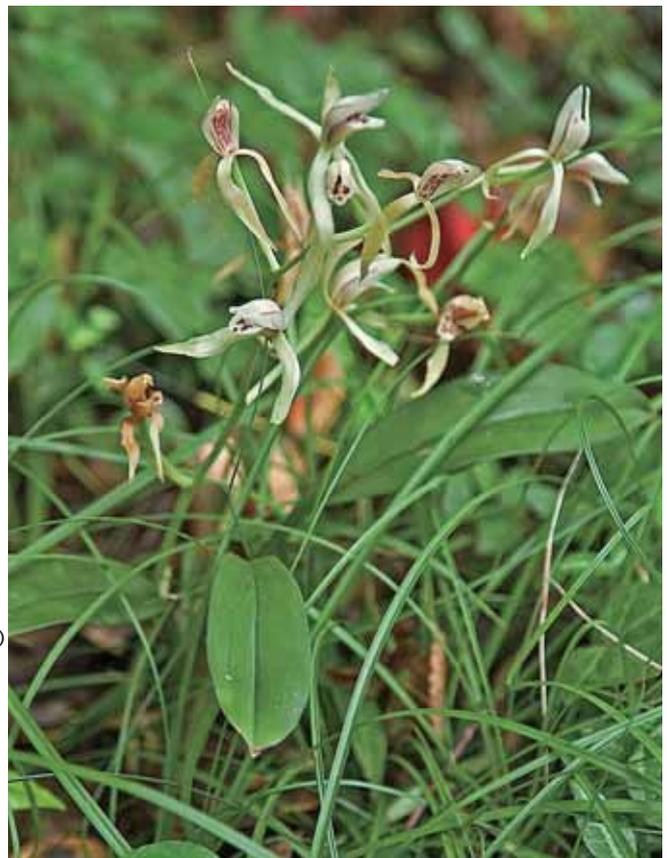
【県内の状況】鴨川市、和田町などの記録があり、2007~2008年には館山市の数地点で観察されている。

【保護対策】生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1957 千葉県下ナギランの分布. 採集と飼育. 18(11): 327 / 新千植誌 1975: 442 / 千植誌 2003: 922, 909.

【写真】2006 館山市 大場達之.

(大場達之)



B クマガイソウ ラン科

重要保護

*Cypripedium japonicum* Thunb.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。竹林、スギ林あるいはコナラ等の二次林に生える。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。地下茎を伸ばして群生することが多い。扇形で縦しわの目立つ葉を2枚対生につける。唇弁は袋状で大きく目立つ。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道（西部）・本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】かつては県全域に広く分布が知られ、旧成東町八幡台のスギ林の下に生えた大きな群落は県指定の天然記念物に指定されていた。

しかしスギ植林の林地が、枝打ち、間伐などの管理が行われなくなったために、林内が暗くなり絶滅した。どこでも里山の管理が行われなくなり、林床の遷移が進んでクマガイソウは激減している。また観賞用の採取も無視できない。佐倉市、富里市、印旛村、

旧光町、市原市など多くのところで1990年以降に存在が確認されているが、どこも個体数が少なく開花に至らない貧弱な個体のみが記録されたところも多い。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】興世里盛春・沼田真 1958 クマガイソウの群生地。千葉県文化財記要：1-3 / 西田誠 1971 成東町クマガイソウ。千葉県天然記念物調査報告書：113117 / 岩瀬徹・小幡和男 1978-1980 千葉県指定天然記念物成東町クマガイソウ調査報告書I-III / 田中強 1983 八千代市少年自然の家のカタクリとクマガイソウものがたり。カタクリ研究2：10-11 / 千植誌 2003：911, 901。

【写真】1998. 旧山武町 大場達之。

(大場達之)



B カキラン ラン科

重要保護

*Epipactis thunbergii* A. Gray

【種の特性】多年生草本。シイ・カシ帯からブナ帯にかけての湿原およびススキ草原に生える。根茎は横に伸び、数本が群がっていることが多い。茎は高さ40～60cm。葉は単葉で互生。花は7月に咲き黄褐色で、唇弁は白く紅紫色の斑紋がある。虫媒で風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ウズビー。

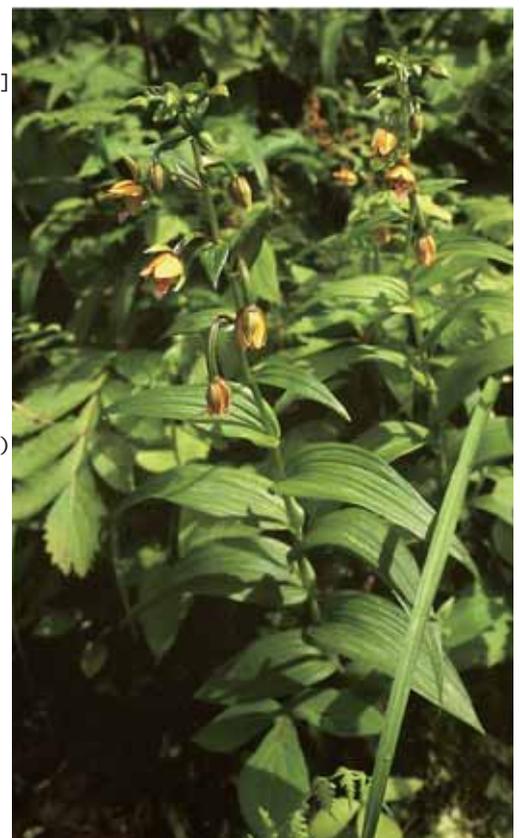
【県内の状況】草地の面積の広い頃には県内全域では、谷津田の湿った斜面などに普通に見られたが、湿った草原の減少と選択的採取のために激減した。2000年以降の記録は4例に過ぎない。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：442 / 千植誌 2003：915, 905。

【写真】1998 市原市 平田和弘。

(大場達之)



B アキザキヤツシロラン ラン科

重要保護

*Gastrodia verrucosa* Blume

【種の特性】小形の多年生草本。菌根性モウソウチク林およびスギ林に見られ、時にクロヤツシロランと混生する。葉は無葉緑。花は9月中から下旬。半ば落ち葉に埋もれて咲く。花被片の外にはヒキガエルの皮膚に似たイボ状の凹凸があり、花は平開せず、先端のみが開く。花後、果柄は30～40cmほど伸張し、果実はワラ色を帯びる。花序は地表より上で分岐する。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】クロヤツシロランとほぼ同じ範囲に分布するが、やや少ない。



【保護対策】自生地の環境を保つ。

【文献】津山尚・杉野孝雄  
1966 日本産オニノヤガラ属  
雑記(3). 植物研究雑誌 41:  
339-346 / 千植誌 2003:  
917, 906.

【写真】2008.10.5 佐倉市  
和田求司.

(大場達之)



B アケボノシュスラン ラン科

重要保護

*Goodyera foliosa* (Lindl.) Benth. var. *maximowicziana* (Makino) F.Maek.

【種の特性】小形の多年生草本。照葉樹林の湿ったところに生える。茎は地表を長く這って分岐し、群れて生える。葉は単葉で互生、中肋沿いが白い。花は9～10月に5～6花が集まって咲き、萼片は淡紅褐色で、内花被片は白色、虫媒で、風散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】市原市以南に分布するが、例外的に銚子丘陵の一部に産地が知られている。

【保護対策】観賞用目的の採取をしない。



【文献】千植誌 2003 : 918, 907.

【写真】2004.9.16 旭市 大場達之.

(大場達之)



B ムヨウラン ラン科

重要保護

*Lecanorchis japonica* Blume

【種の特性】無葉菌根性の多年生草本。無葉。茎は群れて立ち、花は黄褐色で6月に咲く。照葉樹林のやや湿った林床などに生える。虫媒で、風散布。  
[G] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州（東西南部）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山・三石山山系に古くから知られ、市原市、成田市、君津市、鴨川市などからも発見されているが、その一部はクロムヨウランの誤認の可能性がある。

【保護対策】生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。ノ能勢保 1951 千葉県ラン科植物。千植誌基礎資料 1(1) : 44-50 / 千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書（1987 及び 1994）。

【文献】千植誌 2003 : 916, 906.

【写真】1997. 市原市 平田和弘.

(大場達之)



B クロムヨウラン ラン科

重要保護

*Lecanorchis nigricans* Honda

【種の特性】小形の多年生草本。菌根性で無葉。照葉樹林の林床に生える。花は8月に咲き淡黄白色で唇弁は紅紫色の部分がある。茎は直立しわずかに分岐し、細く堅く、花後は黒色となり、翌年までたっている。花の終わった後の茎に黒色の開出した毛状の物が見られることがあるが、これは寄生菌によるものだという。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州・九州。

【県内の状況】主として市原市以南の房総丘陵から記録されているが、横芝光町からの記録もある。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 916, 906.

【写真】(左) 1997 旧横芝町、(右) 1985 神奈川県 大場達之.

(大場達之)



重要保護

B ジガバチソウ ラン科

重要保護

*Liparis krameri* Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。葉は2枚で葉の縁は細かく波曲する。花は6月頃に咲き緑がかった紫褐色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内の主として太平洋側の各地から報告があるが、確実な産地は少ない。花期以外の観察記録はクモキリソウの誤認の可能性がある。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 920, 908.

【写真】1986.6.14 大網白里町 福田洋.



(大場達之)



B ニラバラン ラン科

重要保護

*Microtis unifolia* (Forst.) Reichb.f.

【種の特性】多年生草本。湿ったあぜ道や土手、海岸のクロマツ林の下などに生える。葉は単葉で根生、細く円柱状。虫媒で風散布。群生することが多い。地下に丸い球根をつくる。[G]

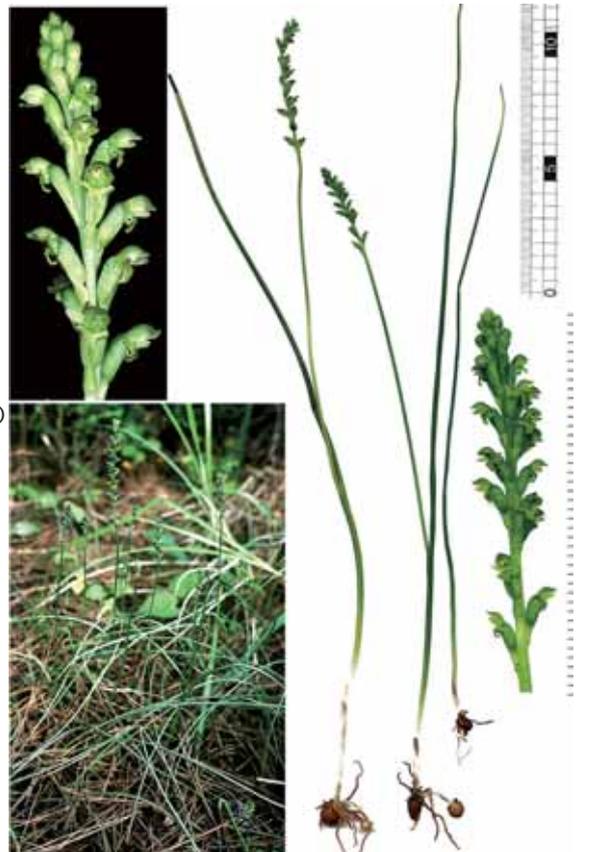
【分布】本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球。南アジア、オーストラリア、ニュージーランド。

【県内の状況】九十九里浜平野の海岸近いところで記録され、旧成東町、長生村、一宮町から報告があるが、近年は採集されていない。

【文献】能勢保 1951 千葉県のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1) : 44-50 / 正宗徹敬・里見信生 1965 北陸の植物 13(3) : 65 / 千植誌 2003 : 915, 905.

【写真】1995. 一宮町 大場達之.

(大場達之)



## B コケイラン ラン科

重要保護

*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.

【種の特性】中形の多年草。主にブナ帯の湿った夏緑樹林の下に生える。地下に球状の偽茎があり、葉は細長く1～2枚。花は5月に総状花序をなして咲き、淡黄褐色、唇弁は白色。虫媒、風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。南千島、サハリン、朝鮮、中国東北部、ウスリー、カムチャッカ。

【県内の状況】折目庸雄によって富里市内で2003年に1個体のみが発見された。種子の飛来による偶発的な分布とも考えられ、今後精査が必要である。

【保護対策】採取を行わない。

【文献】折目庸雄 2008 増補訂正富里の植物/千植誌 2003 : 921, 909.

【写真】1982 長野県 大場達之。  
(大場達之)



## B ミズチドリ ラン科

重要保護

*Platanthera hologlottis* Maxim.

【種の特性】中からやや大形の多年生草本。高さ60～80cm。葉は単葉で4～5枚が互生。花は6～7月に咲き白色の花を密に総状につける。虫媒で風散布。湿原に生える。ヨシ群綱。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国東北部、東シベリア。

【県内の状況】栗山川流域と、成東から茂原にかけての九十九里低地、利根川沿岸の一部に分布が限られている。まとまって生え、花が目立つので、盗掘を受けやすい。

【保護対策】鑑賞などの目的などの採取をやめる。湿原の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 912, 903.

【写真】2000 山武市 大場達之。  
(大場達之)



B ツレサギソウ ラン科

重要保護

*Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

【種の特性】多年生草本。林縁や草地に生える。高さ 50 cm ほどになる。葉は単葉で互生し幅 3 ~ 5 cm。花は 5 ~ 6 月で白色、長さ 1.5 cm ほどの唇弁と、長さ 3 cm ほどの白い距が目立つ。虫媒で風散布。[ G ] ススキ群綱。

【分布】北海道（南部）・本州・四国・九州。

【県内の状況】成田市、旧大栄町、東金市、旧成東町、旧山武町、千葉市、市原市、勝浦市や鹿野山など多くの報告があるが個体数はどこでも少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県のラン科植物。千植誌基礎資料 1(1) : 44-50 / 新千植誌 1975 : 444. 千植誌 2003 : 913, 903.

【写真】1982. 八街市 大場達之. (大場達之)



B ヤマサギソウ ラン科

重要保護

*Platanthera mandarinorum* Reichb. f. var. *brachycentron* (Franch. et Sav.) Koidz.

【種の特性】多年生草本。湿地および明るい草地に生える。地下に肥厚した根がある。葉は単葉で互生し茎に 1 ~ 2 枚。花は 6 ~ 7 月に咲き淡黄緑色で、居は下を向く。虫媒で風散布。[ G ]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】茂原市 ~ 長生村八積の湿地のほか、佐倉市、旧山武町、東金市などでの記録があり、近年、酒々井町や銚子市でも記録されているが、稀である。

【保護対策】鑑賞目的での採取を行わないと共に、湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 444./ 千植誌 2003 : 903,913 .

【写真】1994. 銚子市 大場達之. (大場達之)



## B コバノトンボソウ ラン科

重要保護

*Platanthera tipuloides* Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi

【種の特性】小形の多年生草本。谷津田の周りの管理された湿った土手などに生える。葉は単葉で花茎には普通1枚の葉がつく。花は6～7月に咲き、黄緑色で、距の先端は上を向く。虫媒で風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】木更津市、市原市、君津市、大多喜町、長柄町などで記録されているが、どこでも少ない。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。水田周辺の土手の草地を外来雑草に占領されないように管理する。

【文献】千植誌 2003 : 913, 903.

【写真】千葉県立中央博物館所蔵標本。



(大場達之)



## B トキソウ ラン科

重要保護

*Pogonia japonica* Reichb.f.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】小形の多年生草本。貧栄養の湿地に生育する。根茎は横に長く這い分岐して、群生する。葉は単葉で互生。6月に花茎の長短に1個の紅紫色の花を横向きにつける。虫媒で風散布。[HH] ヨシ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国。

【県内の状況】九十九里低地の成東、茂原市～長生村八積に大きな群落が見られたが、現在は成東・東金食虫植物群落のみである。茂原市～長生村八積の群落は長生村尼ヶ台総合公園に移植された。また下総町の倉水などにも知られていたが、現在は絶滅している。



【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 915, 905.

【写真】2008.5.8 山武市 能勢正代。

(大場達之)



## B カヤラン ラン科

重要保護

*Sarcochilus japonicus* (Reichb.f.) Miq.

【種の特性】小形の常緑多年生草本。樹木着生。葉は単葉で互生。花は5月に咲き、淡黄色。虫媒で風散布 [E]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】かつてはイヌマキ、カヤのどの樹幹に着生するのが珍しくなかったが、大気汚染や、開発による大気乾燥化などによって衰退すると共に、観賞用の採取が加わって、著しく少なくなっている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 923, 910.

【写真】2002.6.16 市原市  
福田 洋.

(大場達之)



## B ヒトツボクロ ラン科

重要保護

*Tipularia japonica* Matsum.

【種の特性】多年生草本。尾根筋のモミ林や乾き気味のスギ林などに生える。葉は単葉で1枚根生。虫媒で風散布。1枚の冬緑葉を持つランで葉の裏は赤紫色。花は褐色で6月に咲く。単生し個体数は少ない。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮南部。

【県内の状況】清澄山・三石山系には古くから知られてきたが、近年市原市、佐倉市、八千代市、大多喜町などからも見つかっている。どこでも個体数は少ない。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 919, 908.

【写真】1995. 市原市 平田和弘.

(大場達之)



*Tulotis ussuriensis* (Regal) H.Hara

【種の特性】小～中形の多年生草本。暗く湿った照葉樹あるいは夏緑樹林の腐植の多い林床に群れて生える。葉は単葉で2枚互生。花は8月に咲き淡緑色。虫媒、風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、千島、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】佐倉市、千葉市から館山市、白浜町にかけて産地が知られるが、比較的稀で、開花しない株が多いため見過ごされている可能性がある。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 914, 904.

【写真】1950.7.14 山武市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



